

文化学園長野保育専門学校

研究紀要

第 8 号

2016

研究紀要 第8号

目次

<原著論文>

幼児期の動作模倣に及ぼす視覚的記憶容量の影響	-----	杉村 僚子 水口 崇	3
------------------------	-------	---------------	---

幼児期における人気キャラクターの人気度実態調査	-----	守 秀子 塚田 右子	11
-------------------------	-------	---------------	----

<報告論文>

事例報告：不登校を主訴とする中学2年生男児母親の カウンセラーとの相互信頼を通しての心理的自立	-----	戸谷 佳子	29
--	-------	-------	----

<研究ノート>

保育科学生に「オリジナル楽譜帳」を作成させるための 基本楽譜の選定計画案	-----	倉科 深陽	40
---	-------	-------	----

幼児期の動作模倣に及ぼす視覚的記憶容量の影響

杉村 僚子

水口 崇*

Children's Imitation is Affected by Visual Memory Span

SUGIMURA, Ryoko

MIZUGUCHI, Takashi

キーワード： 模倣, Goal-directed imitation (GOADI), 視覚的短期記憶, 幼児

*所属：信州大学学術研究院教育学系

問題と目的

模倣は文化学習の成立基盤となる (Tomasello, 1999/2006)。前世代の発見や創造の継承は模倣によってなされる。また、同世代の同種の集団で継承されてきた文化を伝播する際にも主要な役割を果たしている。さらに、模倣はコミュニケーションの成立においても意義深い (Tomasello, 2008/2013)。具体的には、模倣と身振りはコミュニケーションの個体発生及び系統発生の起源であったことが論じられている。以上のことから、模倣は特定の集団に適応し、文化的な生活を享受する上で必要不可欠と言える。

我々は他者の動作を模倣する際、動作の中から目標を抽出する。このような理論は Goal-directed imitation (以下, GOADI) と呼ばれている。Bekkering, Wohlschläger and Gattis (2000) は、両手を同時に使って同側や反側の耳に触れる場合、あるいは左右一方の手を使って同側や反側に触れる場合でエラーの生起量を比較した。結果、片手で反側の耳に触れる身振りを提示した場合、目標となる身体部位と比べて手の選択の誤りが多いことが示された。例えば、右手で左耳に触れる身振りを模倣する場合、左耳に触れている点は誤らないが、耳と同側である左手を使用してしまうのである。さらに Gleissner, Meltzoff and Bekkering (2000) は生後 36 ヶ月前後の幼児を対象として、提示身振りに対しより緻密な設定を行った。結果は、Bekkering et al (2000) の見解と一致していた。

GOADI の理論は Wohlschläger, Gattis, and Bekkering (2003) によって提起された。彼らが示した法則は以下の 5 点である。(Ⅰ) 提示された動作はいくつかの要素に分解される。

(Ⅱ) 記憶容量の制限から、わずかな要素が動作の目標として選択される。(Ⅲ) 選択された目標には階層性がある。手段よりも目的の方が目標として選択されやすい。(Ⅳ) 観念運

動の原理に基づき、選択された目標と最も強く結びついた運動プログラムが活性化される。

(V) 模倣に関する以上の法則は、子どもにも大人にも動物にも適用可能である。仮に何らかの違いがあったとすれば、記憶容量の影響である。以後、これら 5 点の検証が進められた。

上記の法則の (I) や (II) を支持する研究は散見される。例えば、幼児を対象とした実験から、動作提示の文脈が目標の選択に影響を及ぼすことが示された (Dunphy-Lelii, 2014; Mizuguchi, Sugimura, & Deguchi, 2009; Williamson, & Markman, 2006; Williamson, Meltzoff, & Markman, 2008)。言語的な手掛かりを付与することによって、選択する目標を変更できること (Elsner, & Pfeifer, 2012; Mizuguchi, Shimada, Sugimura, & Deguchi, 2014) などである。しかしながら (III) については、批判的な結果が報告されている。手段よりも目的が目標として選択されやすいとは限らず、特定の要素を彩色によって目立たせると、その要素が目標となりやすいこと (Mizuguchi, Sugimura, Suzuki, Deguchi, 2011) などが明らかにされてきた。大学生を対象とした類似の実験でも、手段よりも目的が目標として選択されやすいという見解は支持されていない (Bird, Brindley, Leighton, & Heyes, 2007; Leighton, Bird, & Heyes, 2010)。一方、(IV) については、神経科学の領域から多くの研究結果が報告されている (e.g. Koski, A. et al, 2002; Rewman-Norlund, van Schie, van Hoek, Cuijpers, & Bekkering, 2010)。これらの研究は幼児を対象とはしていないが、模倣におけるブローカー野、運動野などの役割を明らかにしており、(IV) の法則の妥当性を示唆している。

以上のように、(I) から (IV) については多くの研究によって検討されてきた。しかしながら、(V) についてはほぼ未検討である。例えば、約 3 歳半から 7 歳半の子どもを対象として模倣の発達が発達報告されている (Labiadh, Ramanantsoa, Landolsi, & Ouriemi, 2015)。このほかに、幼児と成人を対象に全く同じ模倣課題を用いて、模倣のエラー反応を直接比較した研究もある (Mizuguchi, Suzuki, Sugimura, & Deguchi, 2010)。結果は模倣のエラー反応のパターンは幼児と成人で類似しているが、全般的に幼児の方が成人よりもエラー反応が多いことを示していた。この結果は (V) を間接的に支持している。ただし、記憶容量を直接測定して関連を分析しておらず、記憶容量の影響は不明である。そこで本研究では、幼児を対象に模倣課題と記憶容量の関連を検討することを目的とした。

方 法

参加者 幼児 32 名が参加した (平均年齢 : 5 歳 11 ヶ月, 年齢範囲 : 5 歳 1 ヶ月 - 6 歳 10 ヶ月, 男児 : 19 名, 女児 : 13 名)。

材 料 松原・藤田・前川・石隈 (1993) によって標準化された Kaufman Assessment Battery for Children (K-ABC 心理・教育テストバッテリー) の手の動作と位置さがしを使用した。手の動作は一連の動作 (げんこつ, 手のひら, 手がたな) を見せて、子どもに同じ

順序で動作を再現させる課題である。位置さがしは複数の絵が描かれた頁を 5 秒間見せた後、子どもに、次の頁のマス目の中から絵があった位置をすべて指さしさせる課題である。

Table 1 提示した身振りの分類 I

	耳		肩	
	同側	反側	同側	反側
片手				
右手	1	2	3	4
左手	5	6	7	8
両手	9	10	11	12

Table 2 提示した身振りの分類 II

	耳-肩			
	右-右	右-左	左-左	左-右
手				
右-左	13	14	15	16
左-右	17	18	19	20

両課題ともに、測定される能力の下位項目は複数から成り立っている。ただし、両者に共通する点は、視覚的短期記憶と関係することである。手の動作については継次処理、位置さがしは同時処理の視覚的短期記憶とされている。

提示動作は次のように設定した。Bekkering, Wohlschläger, and Gattis (2000) では、Gordon (1922) や Head (1920) が開発した Hand and ear test を発展させ、片手や両手を用いて同側と反側の耳を触る 6 種類のジェスチャーを使用した。本研究ではこれをさらに発展させたジェスチャーを使用した (Table 1, 2)。具体的には、使用する手 (右手/左手)、触れる身体部位 (耳/肩)、身体部位の側面 (同側/反側) の 3 つを変数とした 20 種類のジェスチャーである。

手続き 2 名の実験者によって行われた。まず、一方の実験者が参加者に対し 20 種類の身振りを無作為に提示した。参加者は身振りを提示される度に、「私と同じことをして下さい」と言われその動作を模倣することを求められた。この模倣課題が終了すると、もう一方の実験者によって、手の動作と位置さがしの課題が行われた。これらの課題については、通常の K-ABC のマニュアル通りにイーゼルを用いながら教示して、所定の用紙に記録した。

模倣課題については、参加者の反応を 3 つに分類した。まず、使用する手、身体部位、身体部位の側面のいずれかを誤った反応である。次に、実験者と参加者の左右が、鏡で映したように全て反転している反応である。これは教示文の意味内容を勘案すると、正答であるとも言いが、誤答であるとも言いがと考えられた。そこでこの種の反応も別途分類した。最後に、提示動作と一致した正反応である。さらに、手の動作と位置さがしの点数について

中央値を求めた。この値に基づき、手の動作の低群と高群、位置さがしの低群と高群に分類した (Figure 1)。なお、模倣課題の正答数と月齢について相関分析を行った結果、 $r = 0.446$ ($p = 0.848$) となり、有意な相関は見られなかった。

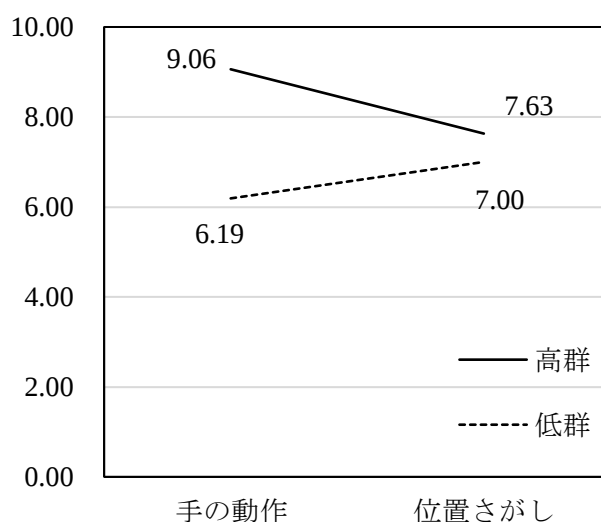


Figure 1 各検査における高低群の模倣課題の正答数

結 果

模倣課題の正答数を従属変数とした 2 要因混合計画による分散分析を行った。第一要因は高低 (低群・高群：参加者間配置)、第二要因は課題 (位置さがし・手の動作：参加者内配置) である。結果、高低は $F_{1,30} = 4.073$, $p = 0.053$, $\eta^2 = 0.120$ であった。課題は、 $F_{1,30} = 0.339$, $p = 0.565$, $\eta^2 = 0.011$ であった。交互作用が、 $F_{1,30} = 4.396$, $p = 0.045$, $\eta^2 = 0.128$ であった。交互作用の分析の結果、位置さがしの高低は $F_{1,30} = 0.661$, $p = 0.423$, 手の動作の高低は $F_{1,30} = 5.551$, $p = 0.025$, 低群の課題間は $F_{1,30} = 1.147$, $p = 0.293$, 高群の課題間は $F_{1,30} = 3.589$, $p = 0.068$ であった。これらの結果から、手の動作の高低が模倣の正答数に影響することが示された。

考 察

本研究の結果、幼児の動作模倣には視覚的記憶が影響することが明らかになった。これは、Wohlschläger, Gattis, and Bekkering (2003) が示した記憶容量の影響を支持する結果であった。つまり、視覚的短期記憶の容量が模倣の成績を変動させることが示されたと言える。ただし、単に視覚的記憶ではなく、継次処理に区分される視覚的記憶が影響していることが示された。そこで以下では、模倣の過程と視覚的記憶の処理様式との関連について議論する。

Kaufman, & Kaufman (1983/1993) によると、問題解決の処理様式は継次処理と同時処理の 2 つに分けられる。継次処理は、情報を一度に一つずつ時間的な順序で連続的に分析処理する過程とされている。一方同時処理は、最も効果的に問題解決するために、刺激の全体的な統合、主に空間的な統合を行う過程とされている。継次処理と同時処理の区分は、他にも類似した概念や用語によって取り扱われている。

前述の通り、GOADI の理論では、動作が提示されてから目標を選択する過程は次のように説明されている。つまり、(Ⅰ) 提示された動作はいくつかの要素に分解、(Ⅱ) 記憶容量の制限から、わずかな要素が動作の目標として選択、(Ⅲ) 選択された目標には階層性があり、手段よりも目的の方が目標として選択される、といった過程である。これは継次処理のみでは説明しにくく、同時処理も関与していると推測される。なぜなら、視覚空間的に提示された動作を統合し、その中から目標を選択して模倣を実行しているからである。このように考えると、視覚的記憶の継次処理にのみ影響が見られたことは疑問が残る。むしろ、同時処理の影響が見られると考えられる。

そこで、対立する他の理論についても検討してみたい。Bird, Brindley, Leighton, and Heyes (2007), Leighton, Bird, and Heyes (2010) は、Generalist Theory を提唱している。この理論によれば、模倣反応は提示動作が視覚的に入力された時点で決定する。つまり、入力後の認知的な処理や出力時の手掛かりは模倣反応に影響しないと主張している。そして、GOADI が提案するような目標の選択、あるいは他者の動作の意図の推測は模倣に関与しないと批判している。仮に Generalist Theory が妥当な場合、動作の全体が最初に提示されて、それを視空間的に統合する処理にのみ、模倣反応を決定づける主要な操作があると予想される。この理論から考えても、模倣の過程は視覚的記憶の同時処理の影響を受けることが推測される。

一つの可能性として考えられるのは、時系列に沿った一連の動きを提示した点である。具体的には、左右いずれか、あるいは両方の手が動き、それが身体の特定の部位に移動していく動作を模倣させる課題が影響したということである。GOADI であっても Generalist Theory であっても、ほぼ同じ特性を持った系列動作を提示している。このため、提示動作の特性とは断定しにくい。GOADI や Generalist Theory を提案する際に用いられた提示動作と完全に同じ動作を使用したわけではない。このため、本実験で使った動作は継次処理と親和性が高かった可能性は残される。実生活で求められることは少ないが、他者の動きを模倣するのではなく、静止している他者の姿勢やポーズを模倣することを求める課題であれば、視覚的記憶の同時処理が影響するかもしれない。

今後の課題としては以下の 2 点が挙げられる。本研究はあくまで幼児期の視覚的記憶と模倣課題の関連を検討したのみである。GOADI が主張しているのは、年齢や種を超えて適用可能という主張である。したがって、幼児期のみでは不十分であり、児童期や青年期、それ以後の年齢を対象とした実験、さらにはチンパンジーなどに代表される大型類人猿を対象とした実験を行う必要があるだろう。次に記憶課題の吟味である。本研究では視覚的記憶

を測定する標準化された検査が乏しかったため、K-ABCの手の動作と位置さがしのみを行った。例えば、working memoryのモデルと対応しており、網羅的に記憶容量を測定できる検査を使用して記憶容量と模倣反応について検証する必要があるだろう。

文 献

- Bekkering, H., Wohlschläger, A., & Gattis, M. (2000). Imitation of gestures in children is goal-directed. *Quarterly Journal of Experimental Psychology*, 53A, 153-164.
- Bird, G., Brindley, R., Leighton, J., & Heyes, C. (2007). General processes, rather than “Goals,” explain imitation errors. *Journal of Experimental Psychology: Human Perception and Performance*, 33, 1158-1169.
- Dunphy-Lelii, S. (2014). Initial investigations into Preschoolers’ mirror-style versus transposed bodily imitation. *Canadian Journal of Experimental Psychology / Revue canadienne de psychologie expérimentale*, 68, 38-45.
- Elsner, B., & Pfeifer, C. (2012). Movement or goal: goal salience and verbal cues affect preschoolers’ imitation of action components. *Journal of Experimental Child Psychology*, 112, 283-295.
- Gleissner, B., Meltzoff, A. N., & Bekkering, H. (2000). Children’s Coding of human action: Cognitive factors influencing imitation in 3-year-olds. *Developmental Science*, 3, 405-414.
- Gordon, H. (1922). Hand and ear tests. *British Journal of Psychology*, 13, 283-300.
- Head, H. (1920). Aphasia and kindred disorders of speech. *Brain*, 43, 87-165.
- Kaufman, A., & Kaufman, N. K. (1983). *Kaufman Assessment Battery for Children (K-ABC)*. American Guidance Service, Inc. (松原達哉・藤田和弘・前川久男・石隈利紀 共訳編著 1993 K・ABC 心理・教育アセスメントバッテリー 解釈マニュアル 丸善出版).
- Koski, L., Wohlschläger, A., Bekkering, H., Woods, R. P., Dubeau, M. C., Mazziotta, J. C., & Iacoboni, M. (2002). Modulation of motor and premotor activity during imitation of target-directed actions. *Cerebral Cortex*, 12, 847-855.
- Labiadh, L., Ramanantsoa, M. M., Landolsi, M., & Ouriemi, I. (2015). Age-related changes in imitating transitive and intransitive actions: changes going from low to high fidelity. *Journal of Child and Adolescent Behaviour*. article 223.
- Leighton, J., Bird, G., & Heyes, C. (2010). ‘Goals’ are not an integral component of imitation. *Cognition*, 114, 423-435.
- Mizuguchi, T., Shimada, H., Sugimura, R., & Deguchi, T. (2014). Children’s imitation is not always goal directed: evidence from goal clarification task. *Symbiosis Open*

Access Journal of Psychology.

- Mizuguchi, T., Sugimura, R., & Deguchi, T. (2009). Children's imitations of movements are goal-directed and context-specific. *Perceptual and Motor Skills*, 108, 513-523.
- Mizuguchi, T., Sugimura, R., Suzuki, R., & Deguchi, T. (2011). Children's imitation is affected by goals, but the goals are outstanding action characteristics rather than action outcomes. *Psychology*, 2, 869-874.
- Mizuguchi, T., Suzuki, R., Sugimura, R., & Deguchi, T. (2010). Imitation of modeled manipulation of objects by children and adults. *Perceptual and Motor Skills*, 110, 603-612.
- Rewman-Norlund, R., van Schie, H. T., van Hoek, E. C., Cuijpers, R. H., & Bekkering, H. (2010). The role of inferior frontal and parietal areas in differentiating meaningful and meaningless object-directed actions. *Brain Research*, 1315, 63-74.
- Tomasello, M. (1999). *The cultural origins of human cognition*. Harvard University Press. (大堀壽夫・中澤恒子・西村義樹・本田啓訳 2006 心とことばの起源を探る 勁草書房).
- Tomasello, M. (2008). *Origin of human communication*. MIT Press. (松井智子・岩田彩志訳 2013 コミュニケーションの起源を探る 勁草書房).
- Williamson, R. A., & Markman, E. M. (2006). Precision of imitation as a function of preschooler's understanding of the goal of the demonstration. *Developmental Psychology*, 42, 723-731.
- Williamson, R. A., Meltzoff, A. N. & Markman, E. M. (2006). Prior experiences and perceived efficacy influence 3-year-olds' imitation. *Developmental Psychology*, 44, 275-285.
- Wohlschläger, A., Gattis, M., & Bekkering, H. (2003). Action generation and action perception in imitation: an instance of the ideomotor principle. *Philosophical transactions of the Royal Society: Biological Sciences*, 358, 501-515.

付 記 本研究は、文部科学省科学研究費補助金の助成を受けた（課題番号 21730532, 研究代表者 水口崇）。本研究の一部は、31st International Conference of Psychology (Yokohama, Japan) で発表した。

幼児期における人気キャラクターの人気度実態調査

守秀子

塚田右子

A Survey of the Popular Characters in Preschool Children

MORI, Hideko

TSUKADA, Yuko

キーワード： ジェンダー・アイデンティティ 性自認 有名キャラクター

問題

幼稚園や保育園を訪ねると、アンパンマンやドラえもんなどに代表される人気キャラクターを目にする機会が多い。それらは、子どもたちの衣服や持ち物であったり、作品であったり、市販あるいは手作りの教材であったり、歌や手遊びになっているものであったりと、実に様々なかたちで子どもたちの生活に入りこんでいる。

このような既成のキャラクターにあふれた保育環境に対しては、批判もあるかも知れない。しかしながら、多くの子どもたちの心を惹きつけているこれらのキャラクターには、やはりそれだけの魅力があるということであろう。これらをうまく活用して保育や教育の充実をはかるのも、保育者にとっては重要なスキルのひとつであると考えられる。本校の学生たちにおいても、園で行われる実習の際に、これらのキャラクターを取り入れた活動を計画する様子がしばしば見られる。

子どもたちから愛され選ばれるキャラクターには流行があり、時代とともに常に変化し続けている。各種メディアを通して、毎年キャラクターの人気調査の結果発表がなされているのを目にするが、学術的な調査は見当たらず、そのほとんどは企業から発表されるものである。企業が手掛ける調査は、その結果が企業の利害と直結している事が予想され、自社製品の販売促進を目的としていたり、流行を操作する目的を持っていたりなど、販売戦略の一部として位置づけられている可能性が考えられる。従って、その結果には何らかの操作が加えられている可能性も高い。また、こういった調査には、調査対象や調査方法、サンプル数など不明のものが数多く見受けられる。その中で、比較的その調査方法が明示されているものが、以下に紹介する大手玩具メーカーバンダイの調査である。

バンダイは、2016年6月23日に自社ホームページ内で「子どもの好きなキャラクターランキング」を発表した。これを受けて、いくつかのメディアがこの結果を報道し、一般市民の目にもとまる事となった。

バンダイによれば、調査概要は以下のとおりである。

■調査概要

- 【調査目的】 子どもの好きなキャラクターに関する意識・実態を探る
- 【調査地域】 全国（熊本県を除く）
- 【対象者条件】 0～12 歳の子どもの持つ親 ※子どもと一緒に回答できる方
- 【調査手法】 インターネット調査（協力：株式会社クロス・マーケティング）
- 【実査期間】 2016 年 5 月 13 日（金）～5 月 15 日（日）
- 【サンプル数】 800 人
- 【構成】（全体） 0-2 歳 3-5 歳 6-8 歳 9-12 歳
- | | | | | |
|----|-------|-------|-------|-------|
| 男子 | 100 人 | 100 人 | 100 人 | 100 人 |
| 女子 | 100 人 | 100 人 | 100 人 | 100 人 |

このほかに、「単数回答」という記載があった。被調査者 1 人につきひとつの回答という意味であると思われる。ホームページ上に記載された調査概要は以上であり、調査対象者の抽出方法、具体的な設問の内容、有効回答数などについては不明である。

次いで、表 1 から表 6 に、バンダイが調査結果として発表したランキングを示す。

表 1 2016 好きなキャラクターランキング
男女総合 TOP10（0-12 歳 バンダイ）

1	妖怪ウォッチ	11.9%
2	それいけ！アンパンマン	11.8%
3	きかんしゃトーマス	5.6%
4	ドラえもん	5.3%
5	プリキュアシリーズ	4.4%
6	ポケットモンスター	3.6%
7	いないいないばあ！	3.4%
8	アナと雪の女王	3.3%
9	仮面ライダーシリーズ	3.1%
10	すみっコぐらし	2.9%

表 1 は、男女・年齢を総合した上位 10 位までのキャラクターである。「妖怪ウォッチ」と「アンパンマン」が、10%以上の子どもから一番好きなキャラクターとして選ばれている。

表 2 は、全年齢を総合した、男女別のトップ 5 である。男女総合で人気が高かった「妖怪ウォッチ」と「アンパンマン」は、やはり男女両性から好まれていることがわかる。

表 2 2016 男女別 TOP5 (0-12 歳 バンダイ)

男児 TOP5			女児 TOP5		
1	妖怪ウォッチ	17.5%	1	それいけ！アンパンマン	15.0%
2	きかんしゃトーマス	10.5%	2	プリキュアシリーズ	8.8%
3	それいけ！アンパンマン	8.3%	3	妖怪ウォッチ	各 6.3%
4	ドラえもん	7.8%		アナと雪の女王	
5	仮面ライダーシリーズ	6.0%	5	すみっコぐらし	各 5.5%
				ディズニープリンセス	

表 3 2016 男女別 TOP3 (0-2 歳 バンダイ)

男児 TOP3			女児 TOP3		
1	きかんしゃトーマス	29.0%	1	それいけ！アンパンマン	45.0%
2	それいけ！アンパンマン	27.0%	2	いないいないばあっ！	16.0%
3	いないいないばあっ！	9.0%	3	しまじろう	7.0%

表 4 2016 男女別 TOP3 (3-5 歳 バンダイ)

男児 TOP3			女児 TOP3		
1	仮面ライダーシリーズ	15.0%	1	プリキュアシリーズ	19.0%
2	きかんしゃトーマス	13.0%	2	それいけ！アンパンマン	14.0%
3	スーパー戦隊シリーズ	各	3	ディズニープリンセス	各 11.0%
	妖怪ウォッチ	10.0%		アナと雪の女王	

表 5 2016 男女別 TOP3 (6-8 歳 バンダイ)

男児 TOP3			女児 TOP3		
1	妖怪ウォッチ	34.0%	1	プリキュアシリーズ	13.0%
2	ポケットモンスター	11.0%	2	妖怪ウォッチ	12.0%
3	仮面ライダーシリーズ	8.0%	3	すみっコぐらし	8.0%

表 6 2016 男女別 TOP3 (9-12 歳 バンダイ)

男児 TOP3			女児 TOP3		
1	妖怪ウォッチ	25.0%	1	すみっコぐらし	14.0%
2	ドラえもん	16.0%	2	リラックマ	12.0%
3	ドラゴンボールシリーズ	11.0%	3	妖怪ウォッチ	7.0%

表3から表6には、年齢ごとのTOP3までのキャラクターが男女別に示されており、子どもたちに好まれるキャラクターが、発達に伴って変化していく様子がみてとれる。これらから、以下の様なことが目につくと言える。

2歳までは男女ともにトップ3に「アンパンマン」と「いないいないばあっ！」がランクインしている。両性が似た様な傾向を示しており、男女間に際立った差が見られないと言える。ところが、3歳以降になると男児だけに「仮面ライダーシリーズ」や「戦隊シリーズ」など正義のヒーローや戦士キャラが、また女児だけに「プリキュアシリーズ」、「ディズニープリンセス」、「アナと雪の女王」といった可愛い女の子やお姫様キャラが、いきなり上位に出現する。つまり、この頃には好きなキャラクターにはっきりした男女差が現れるのである。

大滝（2006 a, b）によれば、子どもの「性自認時期」は3歳頃である。自我が芽生えたこの頃の子どもたちは、自らのアイデンティティとして、「男の子」「女の子」という認識を持ち始めると言えるであろう。幼児期の使用自称詞を調査した守（2015）においても、2歳まではもっぱら名まえや愛称が使われていた子どもたちの自称詞が、3歳頃から急に性別を意識したもの（わたし、おれ、ぼく）に移行していくことが確認されている。好きなキャラクターにおいても、3歳頃に急に出現する男女差は、まさにこのジェンダー・アイデンティティの芽生えを示しているのであろう。

幼児期の子どもたちには、好きなキャラクターと自分を重ねる同一化や自己投影を行って遊んでいる様子がしばしば観察される。たとえば、男児は好きなヒーローになりきって、変身グッズや武器などの玩具を身に付け、戦闘シーンなどを演じて遊び、女児は、お姫様のアクセサリーやドレスで身を飾り、かわいく美しいキャラクターを演じる。自らの性を認識し始めたこの頃の子どもたちは、数ある人気キャラクターの中でも、特に男らしさや女らしさが際立ったキャラクターを好み、そしてそれに憧れて自分を重ねているように見える。もう少し年齢が進んでいくと、この現象は収束していき、妖怪ウォッチのような、性差が顕著に押し出されていないキャラクターが上位に現れてくる。

バンダイの調査からは、上述のような発達に伴う興味深い変化が見えてきた。次いでアイリスオーヤマが自社のホームページで発表しているランキングをとりあげる。アイリスオーヤマは、家具や学習用品などの分野で、これら人気キャラクターが描かれた商品を数多く販売している企業であり、バンダイと同様に毎年こういったランキングを発表している。調査の概要に関しては、ホームページ上に記載されておらず、どのような調査が行われたかは不明である。

比較として、バンダイの2015年発表の結果と並べ、表7に示す。

表 7 2015 年 男女総合 (0-12 歳) TOP10 における 2 社の比較

アイリスオーヤマ		バンダイ	
1	それいけ！アンパンマン	1	妖怪ウォッチ
2	妖怪ウォッチ	2	それいけ！アンパンマン
3	アナと雪の女王	3	アナと雪の女王
4	ミッキーマウス	4	プリキュアシリーズ
5	ドラえもん	5	ドラえもん
6	ハローキティ	6	ポケットモンスター
7	リラックマ	7	いないいないばあっ！
8	きかんしゃトーマスとなかまたち	8	アイカツ！
9	ミニーマウス	9	スーパー戦隊シリーズ
	くまのプーさん	10	きかんしゃトーマス

両社の結果を比較すると、以下のようなことが言える。

上位 3 つはほぼ同じである他、「ドラえもん」も両社とも 5 位である。両社の比較において目立つ事は、一方では 4 位という上位に位置していながら、もう一方ではランクインしていないキャラクターの存在であろう。アイリスオーヤマの 4 位「ミッキーマウス」と、バンダイの 4 位「プリキュアシリーズ」がこれにあたる。「ミッキーマウス」、「ミニーマウス」、「ハローキティ」などはアイリスオーヤマだけで上位にあがり、「戦隊シリーズ」や「仮面ライダーシリーズ」、「プリキュアシリーズ」がバンダイの方だけで目立つということも言えそうである。これらのキャラクターを用いた製品が両社の主力商品となっていることは、この結果と無関係ではあるまい。

このように、ランキングの結果が企業の利害に大きくかかわる調査は、信頼性において疑問の余地があり、公正な調査とは言えない。このことから、守・塚田は、子どもたちにおける人気キャラクターの正確な人気度を明らかにする必要があると考え、バイアスがかからない実態調査をおこなう事とした。

目的

保育・幼児教育現場において、どのようなキャラクターが子どもたちから高い人気を得ているかについて調査し、男女別に、また発達段階別にその人気の実態を明らかにする。

方法

調査期間： 2016 年 7 月～8 月

調査対象： 長野市およびその近郊の保育園・幼稚園に在籍する園児

調査方法：長野市およびその近郊の保育園・幼稚園に勤務する保育者、または実習直後の学生に調査用紙を配布し、回答を得た。調査用紙は別紙のとおりである（文末に添付）。

抽出した26のキャラクターは、バンダイおよびアイリスオーヤマの調査で人気上位にランキングされたものに加え、現職保育者における予備調査で人気が高いとしてなまえがあがったものである。これらを50音順に並べ、人気度について5段階で評定してもらった。

調査用紙配布の際の教示は以下のとおりである。

教示：「今現在、子どもたちにどのようなキャラクターの人気が高いかについて、調査を行っています。担当クラスの子どもたちに、以下にあげたキャラクターが、どれくらい人気があると感じられるかを、5段階で評定してください。具体的には、そのキャラクターのグッズや服を持っている、話題にすることが多い、保育者がそのキャラクターを用いると喜ぶなどですが、実際に聴き取りなどをしていただく必要はありません。あくまでも、ご自身が直感的に感じていらっしゃる人気度を答えてください。」

結果

現職保育者および保育実習終了直後の学生たちから回答を得た。対象クラスは92クラスであった。調査対象クラスの内訳は以下のとおりである。

未満児 0-1 歳：8 2 歳：20 年少：19 年中：19 年長：26

質問紙は5段階評定であったが、以下のように4点～0点で換算した。

「非常に人気がある」＝4点 「人気がある」＝3点 「普通である」＝2点

「あまり人気がない」＝1点 「全く人気がない」＝0点

まず、表8に0-1歳から年長までの男女すべてを総合した順位を示す。

バンダイ、アイリスオーヤマ両社の前年調査およびバンダイの今年の調査で人気が高かった「アンパンマン」と「妖怪ウォッチ」が、本調査でも1位と2位になった。また、「アナと雪の女王」および「ドラえもん」も、両社の調査同様上位につけている。片方だけで上位にランクインしていることで注目していた「ミッキーマウス」、「ミニーマウス」（アイリスオーヤマのみ上位ランクイン）と戦隊シリーズ、仮面ライダーシリーズ、プリキュアシリーズ（バンダイのみ上位ランクイン）は、すべて10位以内にランクインした。

表 8 総合順位 (0 歳～年長)

順位		平均評定値 (4 点満点)
1	それいけ！アンパンマン	2.45
2	ミッキーマウス	2.34
3	妖怪ウォッチ	2.32
4	ドラえもん	2.27
5	ミニーマウス	2.21
6	戦隊シリーズ (ジュウオウジャー)	2.07
7	プリキュアシリーズ	1.98
8	アナと雪の女王	1.97
9	ディズニープリンセス (アナを除く)	1.92
10	仮面ライダーシリーズ (ゴースト)	1.87
11	ポケットモンスター	1.74
12	ハローキティ	1.69
13	プラレール	1.68
14	トトロ	1.65
15	きかんしゃトーマスとなかまたち	1.49
16	くまのプーさん	1.46
17	クレヨンしんちゃん	1.31
18	ノンタン	1.30
19	リラックマ	1.24
20	しまじろう	1.21
21	ダッフィー	1.13
22	いないいないばあ！	0.97
23	アイカツ！	0.74
24	すみっコぐらし	0.69
25	ルルロロ	0.65
26	カミワザ・ワンダ	0.37

表 9 は男女別に見た総合順位である。「アンパンマン」「ミッキーマウス」「ミニーマウス」「ドラえもん」「妖怪ウォッチ」は両性で上位につけている。男児で上位につけている「戦隊シリーズ」「仮面ライダーシリーズ」は、女児ではかなり低い順位であり、女児で上位につけている「ディズニープリンセス」「プリキュアシリーズ」「アナと雪の女王」は

男児には全く人気がないなど、性別が強調されたキャラクターは、はっきりと両性で嗜好が分かれることが示された。

表9 男女別総合順位 (0歳～年長)

順位	男児	平均評定値 (4点満点)	順位	女児	平均評定値 (4点満点)
1	戦隊シリーズ	2.78	1	ディズニープリンセス	2.73
2	それいけ！アンパンマン	2.74	2	プリキュアシリーズ	2.72
3	仮面ライダーシリーズ	2.54	3	ミニーマウス	2.70
4	プラレール	2.53	4	アナと雪の女王	2.60
5	妖怪ウォッチ	2.46	5	それいけ！アンパンマン	2.54
6	ドラえもん	2.37	6	ミッキーマウス	2.52
7	きかんしゃトーマス	2.13	7	ハローキティ	2.39
8	ミッキーマウス	2.10	8	ドラえもん	1.92
9	ポケットモンスター	1.86	9	トトロ	1.75
10	ミニーマウス	1.60	10	妖怪ウォッチ	1.71
11	トトロ	1.40	11	くまのプーさん	1.61
12	クレヨンしんちゃん	1.34	12	リラックマ	1.41
13	しまじろう	1.28	13	ノンタン	1.40
14	ノンタン	1.26	14	いないいないばあっ！	1.28
	くまのプーさん	1.26		ダッフィー	1.28
16	いないいないばあっ！	1.12	16	ポケットモンスター	1.23
17	アナと雪の女王	0.96	17	アイカツ！	1.11
18	ハローキティ	0.83	18	きかんしゃトーマス	1.07
19	リラックマ	0.81	19	クレヨンしんちゃん	1.02
20	ディズニープリンセス	0.80	20	しまじろう	1.01
21	プリキュアシリーズ	0.79	21	戦隊シリーズ	0.89
22	ダッフィー	0.75	22	ルルロロ	0.87
23	すみっコぐらし	0.38	23	プラレール	0.82
24	カミワザ・ワンダ	0.37	24	すみっコぐらし	0.81
25	ルルロロ	0.31	25	仮面ライダーシリーズ	0.79
26	アイカツ！	0.16	26	カミワザ・ワンダ	0.27

次いで、年齢別の順位についてみていくことにする。

表 10 は、0-1 歳児クラスにおける人気の順位を男女別に示したものである。0-1 歳においては、「アンパンマン」の人气が男女ともに飛びぬけている。また、1 位から 3 位が両性で全く同じであることに加え、上位 10 位までの顔ぶれを見ても似通っている。総合順位で見られた様な、性別が強調されたキャラクターの人气は両性において低い。

表 10 0-1 歳 男女別順位

順位	男児	平均評定値 (4 点満点)	順位	女児	平均評定値 (4 点満点)
1	それいけ！アンパンマン	3.38	1	それいけ！アンパンマン	3.75
2	いないいないばあっ！	2.63	2	いないいないばあっ！	2.75
3	きかんしゃトーマス	2.38	3	きかんしゃトーマス	1.88
4	プラレール	2.13	4	ミッキーマウス	1.75
5	ミッキーマウス	1.88	5	ミニーマウス	1.50
6	ドラえもん	1.63	6	ノンタン	1.38
7	ミニーマウス	1.50	7	トトロ	1.25
8	くまのプーさん	1.25	8	ハローキティ	1.13
	ノンタン	1.25	9	くまのプーさん	1.00
10	トトロ	1.00		ドラえもん	1.00
11	しまじろう	0.75	11	プラレール	0.75
	ハローキティ	0.75	12	アナと雪の女王	0.63
	妖怪ウォッチ	0.75		ディズニープリンセス	0.63
14	ディズニープリンセス	0.57	14	妖怪ウォッチ	0.50
15	アナと雪の女王	0.38	15	クレヨンしんちゃん	0.38
	仮面ライダーシリーズ	0.38		しまじろう	0.38
	戦隊シリーズ	0.38		ポケットモンスター	0.38
	ダッフィー	0.38	18	プリキュアシリーズ	0.25
	ポケットモンスター	0.38		リラックマ	0.25
20	クレヨンしんちゃん	0.25		ルルロロ	0.25
	リラックマ	0.25	21	アイカツ！	0.00
22	プリキュアシリーズ	0.13		カミワザ・ワンダ	0.00
	ルルロロ	0.13		仮面ライダーシリーズ	0.00
24	アイカツ！	0.00		すみっコぐらし	0.00
	カミワザ・ワンダ	0.00		戦隊シリーズ	0.00
	すみっコぐらし	0.00		ダッフィー	0.00

表 11 は、2 歳児クラスにおける男女別の順位である。0-1 歳児同様、「アンパンマン」の人気は両性で突出している。2 位につけていた「いないいないばあっ！」は一気に順位を落とした。「戦隊シリーズ」「仮面ライダーシリーズ」、「ディズニープリンセス」「プリキュアシリーズ」など、性別が強調されたキャラクターが各々の性において順位を上げ始めている。

表 11 2 歳 男女別順位

順位	男児	平均評定値 (4 点満点)	順位	女児	平均評定値 (4 点満点)
1	それいけ！アンパンマン	3.75	1	それいけ！アンパンマン	3.40
2	ミッキーマウス	2.63	2	ミニーマウス	2.80
3	きかんしゃトーマス	2.60		ミッキーマウス	2.80
4	戦隊シリーズ	2.58	4	ディズニープリンセス	2.55
5	プラレール	2.55	5	ハローキティ	2.45
6	仮面ライダーシリーズ	2.30		プリキュアシリーズ	2.45
	ミニーマウス	2.30	7	アナと雪の女王	2.35
8	妖怪ウォッチ	2.25	8	トトロ	1.90
9	ドラえもん	2.15		ドラえもん	1.90
10	ノンタン	1.90	10	ノンタン	1.89
11	しまじろう	1.50	11	くまのプーさん	1.85
12	くまのプーさん	1.40	12	しまじろう	1.50
	トトロ	1.40	13	戦隊シリーズ	1.35
14	プリキュアシリーズ	1.37		ポケットモンスター	1.35
	ポケットモンスター	1.37		妖怪ウォッチ	1.35
16	いないいないばあっ！	1.20	16	ダッフィー	1.30
17	ハローキティ	1.15	17	いないいないばあっ！	1.25
18	リラックマ	0.95	18	きかんしゃトーマス	1.20
19	アナと雪の女王	0.80	19	仮面ライダーシリーズ	1.00
	クレヨンしんちゃん	0.80	20	プラレール	0.95
	ディズニープリンセス	0.80	21	リラックマ	0.80
22	ダッフィー	0.65	22	クレヨンしんちゃん	0.65
23	カミワザ・ワンダ	0.37	23	アイカツ！	0.55
24	ルルロロ	0.35	24	ルルロロ	0.45
25	すみっコぐらし	0.20	25	すみっコぐらし	0.40
26	アイカツ！	0.05	26	カミワザ・ワンダ	0.30

表 12 は、年少クラスにおける男女別の順位である。男児では「戦隊シリーズ」「仮面ライダーシリーズ」、女児では「プリキュアシリーズ」「アナと雪の女王」「ディズニープリンセス」が TOP3 に入り、バンダイの調査結果同様、この年齢で一気に性別による嗜好の差が顕著に出現した。「アンパンマン」の人気は、この年代でも依然として根強い。

表 12 年少 男女別順位

順位	男児	平均評定値 (4 点満点)	順位	女児	平均評定値 (4 点満点)
1	戦隊シリーズ	3.68	1	プリキュアシリーズ	3.53
2	それいけ！アンパンマン	3.37	2	アナと雪の女王	3.42
3	仮面ライダーシリーズ	3.16		ディズニープリンセス	3.42
4	妖怪ウォッチ	2.89	4	ミニーマウス	3.16
5	プラレール	2.74	5	ハローキティ	3.00
6	ドラえもん	2.47	6	それいけ！アンパンマン	2.79
7	ミッキーマウス	2.32	7	ミッキーマウス	2.53
8	きかんしゃトーマス	2.21	8	リラックマ	1.95
9	ポケットモンスター	2.05	9	くまのプーさん	1.84
10	クレヨンしんちゃん	1.68		ドラえもん	1.84
11	ミニーマウス	1.67	11	妖怪ウォッチ	1.79
12	しまじろう	1.53	12	トトロ	1.53
13	アナと雪の女王	1.26	13	ダッフィー	1.47
	ノンタン	1.26	14	ノンタン	1.42
15	トトロ	1.21	15	しまじろう	1.26
16	くまのプーさん	1.11	16	クレヨンしんちゃん	1.21
	ディズニープリンセス	1.11	17	いないいないばあっ！	1.16
18	リラックマ	1.05	18	仮面ライダーシリーズ	1.05
19	ハローキティ	0.89	19	きかんしゃトーマス	1.00
20	ダッフィー	0.84		ポケットモンスター	1.00
	プリキュアシリーズ	0.84	21	戦隊シリーズ	0.95
22	いないいないばあっ！	0.79	22	アイカツ！	0.74
23	すみっコぐらし	0.53		ルルロロ	0.74
24	カミワザ・ワンダ	0.37	24	プラレール	0.63
	ルルロロ	0.37	25	すみっコぐらし	0.53
26	アイカツ！	0.11	26	カミワザ・ワンダ	0.21

表13は、年中クラスにおける男女別順位である。年少で見られた性別が強く認識されるキャラクターたちの人気度は、各々の性において引き続き高い。ここへきて、「アンパンマン」の人气が急速に下降する。

表13 年中 男女別順位

順位	男児	平均評定値 (4点満点)	順位	女児	平均評定値 (4点満点)
1	戦隊シリーズ	3.74	1	プリキュアシリーズ	3.74
2	仮面ライダーシリーズ	3.67	2	ディズニープリンセス	3.58
3	妖怪ウォッチ	3.16	3	アナと雪の女王	3.26
4	プラレール	3.11		ミニーマウス	3.26
5	ドラえもん	3.00	5	ミッキーマウス	3.16
6	ポケットモンスター	2.74	6	ドラえもん	2.68
7	ミッキーマウス	2.26	7	ハローキティ	2.63
8	きかんしゃトーマス	2.21	8	アイカツ！	2.37
	クレヨンしんちゃん	2.21		妖怪ウォッチ	2.37
10	トトロ	1.84	10	リラックマ	2.00
11	それいけ！アンパンマン	1.74	11	トトロ	1.95
12	くまのプーさん	1.58	12	ダッフィー	1.89
	しまじろう	1.58	13	くまのプーさん	1.84
14	ミニーマウス	1.53	14	ポケットモンスター	1.74
15	アナと雪の女王	1.21	15	すみっコぐらし	1.50
	ノンタン	1.21	16	クレヨンしんちゃん	1.47
17	ダッフィー	1.16		それいけ！アンパンマン	1.47
18	ディズニープリンセス	1.05		ルルロロ	1.47
19	リラックマ	1.00	19	ノンタン	1.37
20	プリキュアシリーズ	0.95	20	戦隊シリーズ	1.05
21	ハローキティ	0.84		プラレール	1.05
22	カミワザ・ワンダ	0.68	22	しまじろう	1.00
23	いないいないばあっ！	0.63	23	仮面ライダーシリーズ	0.84
24	すみっコぐらし	0.56	24	きかんしゃトーマス	0.79
25	ルルロロ	0.53	25	いないいないばあっ！	0.63
26	アイカツ！	0.37	26	カミワザ・ワンダ	0.32

表 14 は、年長クラスにおける男女別順位である。年中に引き続き、性別が強調されたキャラクターの人気が各々の性において高い。女兒では「プリキュアシリーズ」「ディズニープリンセス」「アナと雪の女王」が年少からずっと TOP3 を占め続けている。男児では、年少、年中と進むにつれじりじりと人気を上げてきた「妖怪ウォッチ」が 2 位にまで上昇した。

表 14 年長 男女別順位

順位	男児	平均評定値 (4 点満点)	順位	女兒	平均評定値 (4 点満点)
1	戦隊シリーズ	3.54	1	プリキュアシリーズ	3.65
2	妖怪ウォッチ	3.27	2	ディズニープリンセス	3.46
3	仮面ライダーシリーズ	3.19	3	アナと雪の女王	3.35
4	ポケットモンスター	2.77	4	ミニーマウス	2.77
5	ドラえもん	2.62	5	ハローキティ	2.73
6	プラレール	2.15	6	妖怪ウォッチ	2.54
7	クレヨンしんちゃん	1.77	7	ミッキーマウス	2.35
8	トトロ	1.54	8	ドラえもん	2.19
9	それいけ！アンパンマン	1.46	9	トトロ	2.12
10	ミッキーマウス	1.42	10	リラックマ	2.08
11	きかんしゃトーマス	1.27	11	アイカツ！	1.88
12	アナと雪の女王	1.15	12	ダッフィー	1.73
13	しまじろう	1.04	13	ポケットモンスター	1.69
14	ミニーマウス	1.00	14	すみっコぐらし	1.60
15	くまのプーさん	0.96	15	くまのプーさん	1.50
16	リラックマ	0.81	16	ルルロロ	1.42
17	ダッフィー	0.73	17	クレヨンしんちゃん	1.38
18	ノンタン	0.69	18	それいけ！アンパンマン	1.31
19	プリキュアシリーズ	0.65	19	仮面ライダーシリーズ	1.08
20	すみっコぐらし	0.62		戦隊シリーズ	1.08
21	ハローキティ	0.50	21	ノンタン	0.96
22	ディズニープリンセス	0.46	22	しまじろう	0.92
23	カミワザ・ワンダ	0.42	23	プラレール	0.69
24	いないいないばあっ！	0.35	24	いないいないばあっ！	0.62
25	アイカツ！	0.27	25	カミワザ・ワンダ	0.50
26	ルルロロ	0.19		きかんしゃトーマス	0.50

結果の要約

- ・2歳までは、男女間で好きなキャラクターに差がない。
- ・2歳までは、男女ともに「アンパンマン」の人气が突出して高い。
- ・年少から、男女ともに性別が強く認識されるキャラクターの人气が、該当する性においてのみいきなり高くなり、年長まで続く。男児においては「戦隊シリーズ」、「仮面ライダーシリーズ」が、女児においては「プリキュアシリーズ」、「ディズニープリンセス」、「アナと雪の女王」がこれに該当する。
- ・バンダイまたはアイリスオーヤマのどちらか一方でのみ人气が高く、他方では人气がなかったキャラクターは、本調査においては、どれも人気上位であった。

考察

企業が発表している人気キャラクター調査の結果に疑問を感じたところからスタートした本研究であった。具体的には、バンダイの調査でかなり人气が高い「プリキュアシリーズ」「戦隊シリーズ」「仮面ライダーシリーズ」などがアイリスオーヤマの調査では上位に入らず、アイリスオーヤマで人气が高い「ミッキーマウス」「ミニーマウス」はバンダイではどの年代のランキングでも全く姿を見せていないという現象である。両社は、その取扱商品でライバル関係にあるわけではないので、相手の足を引っ張るとは考えにくいですが、自社の製品を売るために、主力商品のキャラクターの人气を盛って発表することは十分に考えられる。

本調査では、名前のあがったこれらすべてのキャラクターがかなり上位につけてることが確かめられた。両社が発表したランキングが、自社の主力商品となるキャラクターを優遇したという疑いは払拭されないが、一方でこれら上位につけているキャラクターは、実際に人气が高いという事も確かめられた。

以下に、本調査から得られた知見について考察を加える。

0-1歳クラスおよび2歳児クラスでの、「アンパンマン」人気は絶大であった。「アンパンマン」の人气に関して調べた安田(2010)は、この時期に「アンパンマン」の人气が高まる事について、「保育学生は、アンパンマンの顔が赤ちゃんからも認識されやすく、乳幼児にとって名前も“アンパ”という風に発音しやすかったり、乳幼児の関心が高い食べ物を題材にしているから人気があると判断している」とし、「アンパンマンはいつも微笑みの笑顔、乳児でも認識できる丸顔で、食事を犠牲にしても与えてくれる。かえって髪があれば表情や顔かたちはわかりにくい。アンパンマンは赤ちゃんが最初に認識できる大好きなキャラクターとなったのかもしれない」と述べている。また、新井(2001)は、アンパンマンのパターン化された勧善懲悪のストーリー展開が、この時期の子どもたちにもわかりやすく、不協和を感じずに受け入れられるとし、「善悪の判断がつき、どのような行動が好ましいかを確立するこの時期に、ヒーローが勝ち、悪いものは必ず負けるというアン

パンマンの世界観がこの時期の子どもの認知とぴったりとあっているのだろう」と述べている。

つまり、アンパンマンはそのルックスにおいても、ストーリーや世界観においても、この時期の子どもたちにとってたいへん魅力あるキャラクターとして映るということであろう。認知の発達に伴い、アンパンマンの外見の単純さや、ステレオタイプでワンパターンなストーリー展開に物足りなさを感じるようになってくると、これらは急に赤ちゃんぽいものとしてとらえられ、卒業していくこととなると思われる。

次いで、「アンパンマン」同様に0-1歳児で男女両性から人気が高かった「いないいないばあっ！」についても触れておきたい。

この時期の子どもたちの嗜好には、親の考えが強く反映されることが予想される。下品であったり暴力的であったりするなど、親によって教育上好ましくないと判断されるキャラクターは子どもたちの目に触れる機会が少なくなり、親たちが積極的に子どもに触れさせたいと思うようなキャラクターが子どもたちの周囲に置かれることになる。「いないいないばあっ！」はそういった意味で、子どもだけではなく親からも強い支持を受けていると考えられる。NHK教育テレビの制作によるこの番組は、着ぐるみの犬や操り人形、小学生のお姉さんが登場して、歌や体操、劇などを繰り広げる。基本的生活習慣を獲得するための教育的要素も盛り込まれ、乳児でも充分楽しめる内容であると同時に親の満足度も高そうである。放映時間が、朝夕2回で15分間ずつというのも人気の秘密かもしれない。15分程度なら乳児でも飽きないし、また、子どもにテレビを観せることに抵抗がある親も、子どもが夢中になって観続けたとしても15分で終了するということも安心感につながっているのであろう。家事のゴールデンタイムに、安心して子ども一人で観せられる番組が存在するのは、親にとってもありがたいことである。また、言語による理解力が進む2歳児以降になれば楽しめる番組の選択肢も増えるが、この番組の様に対象を2歳以下に特化して、乳児にもわかる内容で創られた番組は他になく、希少価値があるという側面も考えられる。この様に、0-1歳児には人気が高い「いないいないばあっ！」であるが、やはり内容は2歳以下向けであり、2歳児クラスになると、ストーリー性があり刺激も強い「アンパンマン」に急に差をつけられることになる。

「アンパンマン」の人気が落ち着き始める年少クラスからは、突然キャラクターの人気にはっきりした男女差が出現し、年長まで続いている。これは、バンダイの調査結果と一致するものであった。この現象は、序章でも述べた様に、まさにこの時期の子どもたちに性自認が始まることの表れであろう。男児が理想とする男らしさを持ったモデルは、頭でっかちな愛され顔の「アンパンマン」ではなく、かっこよい戦闘シーンを繰り広げながら悪者をやっつける正義のヒーローたちである。「仮面ライダーシリーズ」と「戦隊シリーズ」がこれにあたる。女兒たちも、幼稚なアンパンマンを離れ、女の子らしいかわいらしさや、華やかさ美しさをふりまくキャラクターたちに憧れる。「プリキュア」や「ディズニープリンセス」、「アナと雪の女王」がこれにあたる。子どもたちは、これらを理想のジ

エンダーモデルとして捉え、それらに自己を重ねジェンダーアイデンティを確立していくのであろう。そのためか、この時期は異性の理想像のキャラクターは全く選ばれることがなく、男児に好まれるキャラクターは女児からは全然人気がないし、女児が好きなキャラクターは男児からは見向きもされないといった現象となつてあらわれる。

この時期より前の0歳から2歳頃までの子どもたちに人気が高かった「アンパンマン」や「いないいないばあ!」は、その年齢から考えると、親たちからも認められ選択されるキャラクターであった可能性が高い。しかし、3歳児以降になれば、キャラクターの人気には、クラス集団内の同調による影響も強くあらわれてくると思われる。性自認が始まるこの時期、クラス内にも男の子集団と女の子集団が形成し始められるが、大滝(2006, b)によれば、集団が形成されることにより、急速に性自認が進むことが確かめられている。つまり、性自認のなされるこの時期の子どもたちは、理想のジェンダーモデルとなるキャラクターに憧れるのと同時に、仲間たちの好むキャラクターが自分にとっても魅力的なキャラクターとして認知される同調も加わる。そして、集団内での流行が生まれ、それがさらにキャラクターの人気につながっていくのであろう。

全体を通して気づいたことは、キャラクター人気には流行があるといっても、30年以上前から存在している根強い人気を持つキャラクターも多いということである。アンパンマン、ドラえもん、ミッキーマウス、ミニーマウス、ハローキティなどである。一過性の流行とは異なり、親や祖父母の世代からも続くこれらのキャラクターの人気には、いつかは翳りがみられるのかもしれないが、急に消えることはなさそうである。性自認が進む時期に人気の高い、「戦隊シリーズ」、「仮面ライダーシリーズ」、「プリキュアシリーズ」なども毎年リニューアルされてはいるものの、長く継続しているシリーズであり、根強い人気を持つと言えるであろう。幼児期の子どもたちにとっては、マイナーチェンジされることで、飽きずに新シリーズに移行できるという面も大きそうである。また、マイナーチェンジされることで古臭さが取り除かれ、男児にとっては「今どきのカッコよさ」女児にとっては「今どきのかわいさ」にぴったり当てはまるジェンダーモデルを提供し続けることができているのかも知れない。バンダイにとっては毎年新しい商品の需要を生み出せるたいへん良いシステムであろう。これら人気を維持し続ける強豪キャラクターに混じって、2013年に一躍脚光を浴びたのが、「妖怪ウォッチ」である。本調査は対象が幼児であったためさほど目立たないが(総合3位)、バンダイによれば小学生になるとさらに人気は上がる。また、女児に圧倒的人気を誇る「アナと雪の女王」も、2013年にすい星のごとく現れたキャラクターである。この二つの人気は今後定着していくのかどうか、興味深いところであり、引き続き調査をしていきたい。加えて、性自認が確立した後の児童期には、キャラクターの嗜好にどのような男女差の変化が見られるのかについても、調査していきたい。

また、こういった人気キャラクターなるものが、日本以外の国でも存在するのかというところも興味を持たれる。なぜならば、海外で子育てをしている人に「その国の子どもた

ちに人気があるキャラクターは何？」と訊ねると、「この国には日本の様な人気キャラクターは存在しない」「キャラクター・グッズというものは見かけない」という答えが返ってくるからである。もちろん、テディベアやディズニーアニメのキャラクター、スヌーピーなど有名な人気キャラクターは存在するが、日本のようにそれをつけると商品が売れるといった現象は見られないという。人気キャラクターなるものの氾濫は、アニメやゲームの文化において世界を席卷している我が国特有の現象なのかについても、確認していきたいと考えている。

引用文献

- 新井 範子 2001 子どもとキャラクター・グッズ ―キッズ市場解明に向けて― 繊維製品消費者科学, 42, 7, 16-22
- 守 秀子 2015 幼児期の自称試使用に関する実態調査 文化学園長野専門学校研究紀要, 7, 15-27
- 大滝 世津子 2006 a 集団における幼児の性自認メカニズムに関する研究 ―幼稚園における集団経験と幼児の性自認時期との関係― 教育社会学研究, 79, 105-125
- 大滝 世津子 2006 b 幼児の「性自認時期」と「対人スタンス」との関係 東京大学大学院教育学研究科紀要, 46, 131-144
- 西川 ひろ子 2010 幼児期のキャラクター嗜好に関する研究 ―何故、子供は2歳のときにアンパンマンが大好きになり、5歳になると「ださい」というのか― 安田女子大学紀要, 38, 139-147

引用サイト

- バンダイ公式サイト 夢・クリエイション 「お子さまの好きなキャラクターに関する意識調査」 <http://www.bandai.co.jp/kodomo/pdf/question228.pdf>
- アイリス収納インテリアドットコム 人気キャラクターランキング 2015 <https://www.iris-interior.com/chara2015/>

付記

本研究の調査にあたり、ご協力いただきました多くの保育者の皆様および実習生の皆様に、心より御礼申し上げます。

【資料】 幼児におけるキャラクター人気度調査

該当クラスの年齢を○で囲んでください (未満児 0～1 歳 2 歳 年少 年中 年長)

	非常に人気がある	人気がある	普通である	あまり人気がない	全く人気がない
アイカツ!					
アナと雪の女王					
いないいないばあっ!					
カミワザ・ワンダ					
仮面ライダーシリーズ (ゴースト)					
きかんしゃトーマスとなかまたち					
くまのプーさん					
クレヨンしんちゃん					
しまじろう					
すみっこぐらし					
戦隊シリーズ (ジュウオウジャー)					
それいけ! アンパンマン					
ダッフィー					
ディズニープリンセス(アナを除く)					
トトロ					
ドラえもん					
ノンタン					
ハローキティ					
プラレール					
プリキュアシリーズ					
ポケットモンスター					
ミニーマウス					
ミッキーマウス					
妖怪ウォッチ					
リラックマ					
ルルロロ					

その他 (人気が高いと思われるキャラクターがあれば、以下に具体的に記入してください)

()	
()	
()	

ご回答日 2016 年

月 日

ご協力ありがとうございました

事例報告：不登校を主訴とする中学２年生男児母親の カウンセラーとの相互信頼を通しての心理的自立

戸谷 佳子

Case Report : How did a Mother with the School Avoidance Problem of
an 8th Grade Son Acquire the Psychological Independence through
the Mutual Reliance with a Counselor?

TOYA, Keiko

本研究では、転校後に不登校になった男子中学生の母親と面接をして、母親自身と男子中学生の肯定的な意味での“依存”を大切にすることが最終的に家族の自立につながったことを考察する。母親は面談の中で自分の感情や行動をカウンセラーに受け止められていると感じることができた。そこから母親とカウンセラーの信頼関係が出来たため、母親は継続して面接に来ることができた。その結果、母親は自分の感情を自分自身で受け止めることができるようになり、子どもや夫に対する接し方に関して自己決定できるようになった。父親もそのような母親に理解され、自分の行動を自主的にコントロールしていった。また男子中学生は母親に自分の気持ちを理解され、甘え行動も受け入れられる経験が出来たことで、学習や登校に関して自主的に行動できるようになった。

キーワード：自立、依存、母親面接、不登校、家族

I 問題と目的

不登校の中学生を前にしたとき親は「このまま学校へ行かなかったらどうしよう。このまま社会に出て行けなかったらどうしよう」と不安が走る。「自立してもらわなくては困る。そのためには自分から学校に行くようになって欲しい」とも言う。ではこの「自立」とはいったい何を指すのであろうか。

渡邊（1995）は「親からの心理的離乳・離脱・独立、そして自我の発見と再構成により主体的な自己確立（自立）を指す」とした。そして「自立」を①心理的自立（親からの心理的離乳・主体的自己確立）②社会的自立（自己主張能力・対人関係能力）③生活的自立（生活

身辺的自立・経済的自立)という3つの視点で捉えている。このうち生活的自立がまず獲得され、その後社会的自立・心理的自立へ発達すると考える。渡邊はまた自立するということにおいて『依存(dependence)から独立(independence)へ』という西欧で発展してきた公式のもとに、依存は否定的概念として扱われてきた」と述べている。そして「現代の子どもや青年の自立の遅れや登校拒否・自殺・モラトリアムなどの問題は、相互依存社会と言われる我が国に、西欧文化に立つ他者との関係を断ち切った独立の概念と依存の禁止・抑圧が持ち込まれた結果ではないだろうか」と問題提起し、「自立」を獲得するためには「家庭における子どものつらさへの共感に基づく周囲の大人の支援が必要不可欠である」とする。また神谷(2002)は、「自立」に関して①独立性(自由な意思決定と自己主張・自己と他者の存在や権利を認めあう相互不可侵・自らの内への自信と自己受容、自己信頼、自己依拠)②依存性(他の人を受け入れ、理解しあう共感性・寛容性・相互の立場を考え、尊敬しあう相互信頼性・互いに尊敬、信頼しあう中で、精神的に支え合う相互依存性)という2つの下位概念を置いている。河合(1984)は「自立」に関して「離れることも大切だが、離れたり、切ったりするだけなら、それは孤立に陥ることはあっても自立にはなれない気がするのである」と述べている。これは離れることだけが自立ではないと述べていると考えられ、渡邊(1995)、神谷(2002)の主張と矛盾しないと考えられる。

では一般的な「自立」とはどうであろうか。広辞苑によると、「他の力に頼らず自分の力で身を立てること。ひとりだち」となっている。一方広辞苑で「依存」は「他によりかかって存在すること」と書かれており、「自立」という言葉と対立する概念として使われているようだ。

そして筆者は臨床活動をする中で、多くの親が広辞苑的な解釈で子どもに関わっていると感じている。つまり渡邊(1995)、神谷(2002)、河合(1984)らが言う肯定的な意味での「依存」ではなく否定的な意味での「依存」として、すべての「依存」を捉えているということだ。親自身も「依存」せず、子どもにも自立を促すために「依存」させないという傾向があると感じる。肯定的な意味の「依存」が否定されているということは相互依存・相互信頼的依存が否定されているということになる。それは筆者がカウンセリングの中で良く耳にする多くの親からの「人に相談をするなんて嫌だと考えていたので、相談を受ける前は相当抵抗があった」「中学生になったら何でも自分で決めて、責任を持って行動してほしい」などの言葉にも表現されている。筆者は相互依存・相互信頼的依存が大切であると考えます。

そこでこれからは、肯定的な意味での「依存(性)」を“依存(性)”とし、人から離れていくことだけを指すのではなく、“依存(性)”と神谷(2002)が提唱する“独立”を含む「自立」を“自立”と表すことにする。

エリクソン(Erikson,E.H.)(1973)は、渡邊(1995)があげている心理的自立の1つの側面である主体的自己確立について青年期の発達課題として取り上げている。しかし平木(2003)は大人の“自立”を考えることが大切であるとし、「家族という集団は、その発達の核に健全なホメオスタシスを確保すべく内外のあらゆる変化や圧力に柔軟に対応しなければならない

い。それには何といても家族の基盤である夫と妻の自立、情緒の成熟、相補性の受容が必要となる」と言っている。また福島(1992)は「主体的自己は、ほとんど性差なく、青年期ではなく成人期に顕著に発達している」ことを実証した。自立の問題は青年期だけでなく成人期に於いても大切な概念と考えられる。それは例えば子どもが不登校になるという自己確立の危機に面したときの親の問題になると考えられる。それまで毎日登校していた子どもがあるときを境に学校に行かなくなると、親はそれまでの生活から視点を切り替え子どもの状況の変化に合わせた捉え方をしなくてはならない。しかしそのとき親は不安や焦りが先に立ち、自分自身では判断や決断ができなくなることが多い。そこで周囲の援助資源に“依存”し、親自身が支えられる必要がある。その援助資源の一つに相談の場があると考えられる。

本研究では中学生の不登校になった子どもを持つ母親の面接を報告し、クライアントである母親がカウンセラーに“依存”し、クライアントが自主的に決定できる“独立性”を獲得していった、この経過にカウンセラーが与えた影響について明らかにすることを目的とする。また子ども自身は来談しなかったが、その母親に“依存”し、やがて“独立”していったことについてのカウンセラーが間接的に与えた影響も考察する。さらに家族全体としての成長も考察する。

なおこの事例に関してはクライアントの承諾を得ている。また個人情報保護の観点から、考察に支障のない範囲で事実関係を改変してある。

Ⅱ 事例の概要

面接者を Co としその言葉を< >で、相談者を Mo としその言葉を「 」で、その長男を B 男として発言を{ }で、父親を F とし発言を『 』で記述する。

面接対象者: 初回時 40 歳、中学 2 年生 B 男の母親

主訴: 子どもの不登校

面接期間・回数: X 年 11 月から X+2 年 4 月、46 回

家族: 父親 (46 歳)、母親 (40 歳)、B 男 (13 歳 中学 2 年生)、弟 (10 歳 小学 4 年生) の 4 人家族。

Mo は専業主婦。F は厳格で仕事が忙しく子どもの教育は Mo に任せている。B 男は幼少期から手のかからない子どもであった。小学校・中学校と成績は常にクラスでトップであった。中学ではサッカー部に所属し、クラスのリーダー的存在であった。弟は明るく元気で友達とよく遊ぶ。

【面談に至るまでの経過】

X 年 7 月に F の急に決まった転勤に伴い、一家で C 県から転居。C 県には一戸建ての家

も買ってあった。B 男は X 年 8 月夏休み明けから転居先の学校へ転校。Mo から見ると B 男は新しい学校になじもうと張り切っていたが X 年 8 月末から元気がなくなり、口数も減ってきた。B 男は X 年 9 月初旬のある日、頭痛のため朝起きられず欠席をする。その後は「頭痛が辛い。学校がつまらない。行きたくない」と言いながらも登校はしていた。X 年 9 月末には頭痛が酷いため B 男が受診を希望する。脳神経外科では異常が見あらず精神科を勧められる。投薬もされたが頭痛が改善されず、1 ヶ月半くらいで B 男は薬を飲まなくなりこの頃欠席が増えていく。

さらに欠席が継続し始めた X 年 11 月初旬、何度か F が車に B 男を無理矢理乗せて学校へ連れて行くが半日くらいで早退してしまう。B 男の食欲も表情もみるみる無くなっていった。登校できないときは F に激しく叱られた。11 月 7 日夜、欠席して F に叱られた後 B 男はノートをすべてカッターで切り裂いた。これは部屋の物音に驚いて B 男の部屋に入っていた Mo によって発見された。その後も朝起きない B 男に対して F は強く登校を促し、車に乗せて連れて行く日が続いた。11 月 12 日 B 男はカッターで自分の指を傷つけた。たまたま B 男の部屋に入った弟が見つけ Mo が慌てて止める。

この出来事がきっかけになり、かねてから Mo が相談していた知人を通して Co の相談室への予約となった。Mo は B 男にもカウンセリングに同行を希望したが B 男は「自分はいかない」と言ったため、Mo のみの面接となる。結局最後まで B 男は来談しない。途中一度だけ F が Mo との同時面接を行う。

【面接構造】

Mo との面接は X 年 11 月から X+1 年 4 月までは 1 週間に 1 度 1 回 1 時間、X+1 年 5 月からは B 男の様子が落ち着き始めたため、2 週間に 1 度にすることにした。有料相談。

【初回面接】

#1 では Mo は身なり・化粧はきちんとしているものの、非常に硬い表情でハンカチを握りしめていた。

Mo は来談までの経緯を語った後、「学校がつまらないとしか B 男は言わない。それ以上何が原因で学校に行かないのか全くわからない。本当は B 男をここに連れて来たかった。B 男が不登校であることを受け入れられない。どうしたら B 男が学校に行くようになるだろうか」と話しながら何度も嗚咽していた。

「以前のように学校に行って欲しい」転校後にこのような状況になったことで Mo は転校が原因だろうと分析をしていた。「転校をさせなければこのようなことにならなかったのに」という Mo の辛い気持ちを Co はまず理解しようとした。気持ちが理解されようとしていることがわかると Mo は少し冷静さを取り戻した。そしてこのように尋ねた。「今自分は B 男にどのように接したら良いのだろうか」

Co は Mo が適切に B 男に関わり、B 男が落ち着くことが大切であると判断した。そのため Co は Mo に、<登校を強要したり登校できないことを強く叱責したりすることで、B 男がノートに書いて、指を傷つける行動に至っている可能性が高い>ことを伝えた。このまま

FがB男を追い詰めると最悪のことも起きうると考えたのでCoはMoにこのように伝えた。Coの真剣な訴えにMoは頷いた。またFがこのことを理解できそうかMoに聞いたところ「Fの行動がB男にプレッシャーになった結果であるのでFにわかってもらうことが必要だと思う。しかしFにはうまく私は話せないかもしれない。でも取り返しのつかないことになるかもしれないことはFもわかってくれると思う」とのことだった。また、B男は受診を拒否しているがMoのみでも受診するよう依頼した。医師との連携はMoを通して必要に応じて行うこととした。

この面接でCoはMoに対して、B男の様子が落ち着くまでは登校刺激は与えず当面は登校しなくて良いとB男に明確に伝えた上で、朝はいつもの時間に起こすよう依頼した。B男が朝のうちに起床出来ていたため、生活のリズムをこのまま維持する目的であること、登校を考えるとこの生活のリズムが大切であることを伝えた。その他MoからB男への関わりは一般的な休みの日と同様にしてもらうよう提案した。

【初回面接から支援目標】

Moの混乱している状態やB男の状況を鑑み、1週間の間隔で面談することにした。

#1ではMoは終始涙しており、冷静に物事を判断できる状況ではないと考えられた。さらにFがB男を強引に登校させようとしていることもどう考えて良いかわからない状況であった。当面の目標はMoが不安な気持ちなどを吐き出し、Mo自身が落ち着き冷静な判断ができるようになることとした。そのためにはMoがCoを信頼し継続して来談することが必要であると考えた。Moの信頼を得るためにはB男が登校できないことで焦るMoの気持ちをCoが理解し、登校することを願う気持ちを否定せず、MoがFと共にB男に落ち着いて関われるようにすることであった。少しでも登校する方向に向かっていることを実感してもらうためにもMoがB男に毎朝声を掛けることなどを具体的に提案した。Moの心の安定のためにも、B男を変化させることを目的とするのではなく、B男が安心して過ごすことを目的とした。

第1期 X年11月～X+1年3月 #2～#17 家族全員が混乱している時期

#2では以下のことがMoから語られた。両親ともB男に対して朝は起こすが登校を強要せずに3日間様子を見ていたところB男に少し笑顔が戻った。元気が出てきたB男に対してFは4日目の朝学校に行くよう強く言った。その直後B男は家出してしまった。午後6時を過ぎても戻らないため警察に通報。午後6時半過ぎにB男は自分で帰って来た。{お金がなく寒いので野宿は無理だと思い帰って来た}とB男はMoに話したがそれ以上は語らず自分の部屋に入ってしまった。

Moは「今登校を促されることがB男にとって辛いことなんだ。しかしそれをFはB男が家出をしてもまだ理解しようとしない」Fは『ここで甘やかしてはいけない。新しい学校で人間関係もまだできていないのに休み続けてしまったらもっと登校しづらくなるはずだ』とMoに話した。MoはFの気持ちとB男の状況の間に挟まれ困り果てたが意を決し、Fに

対して「今後どのようにしたら良いか考えたいが、家族だけでは感情的になってしまい難しい。一度カウンセリングに行ってもらえないか」と話した。FはCoについて疑念があったために『カウンセリングに同行する』と承諾した。

#3はFも同行した面談になった。相談室ではMoは下を向いたまま、Fは硬い表情だった。CoはFの話を聴き、B男に期待して心配しFなりに真剣に考えていることを支持してFの辛さを理解しようとした。またFは学校からの働きかけが不足していることに不満を感じていたのでCoから以下のような話をした。<学校または担任の先生は、学校に来づらい生徒に対して強い登校刺激が逆効果になる場合もあるので控えめな対応になることもある。ご家庭から学校へ意向を伝えると学校としてもありがたいはず>

具体的な対策も見えたためFは来室したときより表情は緩んでいた。『この話し合いの中でB男が今日明日すぐに登校できない状況であることはわかった。しばらくは無理強いをしないことにする。本人にもこのことを話すつもりだ』と言って帰って行った。

Moはこの面談のときは一言も話をしなかったが何度か涙をぬぐっていた。Fはこのとき一回限りの来室であった。

#4では#3の後FとMoで学校に出向き、校長・教頭・学年主任・担任と面談をしたことなどが報告された。このとき校長も今はB男に無理矢理登校させることは危険であると理解した。そしてFの職場は一人職場なのでそこで勉強して校長に報告したらそれを以て登校と見なす、と校長から許可が出た。FからB男にこの話をしたところB男は渋々ではあるが承諾した。翌日から平日午前中B男はFの職場へFと一緒に通い、職場の片隅で一人黙々と勉強をしていた。FもB男が自分と話したがることを理解し話しかけるのを控えてくれていた。午後は自宅に戻るがFがいない時間にMoへの甘えが激しくなる。四つ這いで、Moに{・・・でちゅ}とすり寄ってくる。B男は弟がいてもMoに甘えるがFが帰ってくると部屋に閉じこもり、そのような行動は一切見せない。Moは戸惑い、Coにこの行動の意味を確認した。「私よりも大きいB男がすり寄って来ると最初はぞっとしたが、本来反抗期になる年齢のB男がここまでの行動をするというのはこれが必要なのだろうか、突き放した方が良いのだろうか」Coからの<お母さんはどのように感じますか?>という問いかけにMoは「Fの職場に行くようになってからこのような行動が出てきた。しかし以前のように自分を傷つけたり、ノートを切り裂いたりすることはもうしない。今B男にとって必要な行動だと感じる」と泣きながら答えた。Coからは<Mo自身の感覚を大切にしたいこと、だがMoがどうしても耐えられないと感じることについては正直にB男に伝えて欲しい>と依頼した。

X年12月、クワガタ専門店が自宅近くに開店した。そこへ弟とB男は毎日通うようになる。その店長とも気が合い、何時間も話してくるようになった。Moは「B男は最近私との会話も全てクワガタのことばかりだ。家にいる時間は全てクワガタの世話をしている。もっと勉強をして欲しいと思うが、転校してから外部の人と話をすることは初めてだ。また私に赤ちゃんのように甘えてくるのが減ってきているのはクワガタのおかげだ」(#6)と不安も

一部感じつつも、これで良いのだと自分に言い聞かせるように Co に話していた。

#8 では B 男が X 年 12 月末突然 Mo に「引っ越しは納得できなかったんだ」と言ったことが語られた。Mo が「前の学校に戻りたい？」と聞くと B 男は「それはない。学校へ行くなら今の学校しかない。もう戻れない」と言った。Mo は転居するときに B 男や弟の気持ちは全く聞かず、F の仕事の都合で転居することになったため、無理に転校させてしまったと Co の前で何度も泣いた。

Mo が転居時に B 男の気持ちに添う形がとれたのではと自分を責めていたのでこの気持ちを Co は受け止めた。同時に Co から「B 男が今 Mo に自分の気持ちを話すことが出来たことは Mo がいつも B 男に寄り添っているからだ」と労い、伝えた。

X+1 年 1 月冬休み明けも B 男は F の職場へ午前中は行き、午後は自宅でクワガタの世話をするというリズムを続けていた。F は自分の職場には来られるが登校の兆しを見せない B 男の様子に再び焦り始めた。(#10)

#11 で Mo は B 男のことより F に対する違和感を語った。F は B 男を理解しようとしてはいたが B 男に対して登校するよう強く言うときがあり、B 男がそれに対して何も反応せず自分の部屋に入ってしまうことが続くと F は『Mo の対応が悪いからだ』と責めることがあった。そのような F に対して Mo は苛立ちも訴えた。「転校も F のせいなのに、不登校になった B 男や自分のせいにすることが許せない。どのように F に話をしたらわかってもらえるか」と言いながら泣いた。

Co は Mo の F に対する気持ちをしっかり受け止めるように努めた。今まで Mo は F に対してここまで強く「許せない」と言うことはなかった。#11 では F に対する様々な気持ちが一気に噴出したようであった。Mo はある程度話したところ落ち着き、表情も和らいだ。そこで Co は Mo の「どのように F に話したらわかってもらえるか」という言葉を取り上げ、<このことを一緒に考えましょう>と提案した。F が F として、F の考え方ややり方で B 男のことを考えており、大きな意味ではどちらも B 男の自立を願っており最終的に Mo も F も同じ方向を望んでいることを紙に書いて確認した。このことで Mo は冷静になった。

Mo は落ち着きを取り戻すと、F が家計を支えており仕方のない転勤であったことと、自分と同様に B 男の将来を望んでいることを理解した。

少しずつ Mo の気持ちに変化が出てきた。この頃 B 男は「高校へは行きたいので 3 年生になったら登校する」と Mo に言うようになる。(#17)

第2期 X+1 年 4 月～X+1 年 12 月 #18～#39 Mo が自主的に動けるようになり B 男がさらに自分の意志を持ち F も理解を示す時期

B 男は 3 年生になり 1 学期始業式から宣言通り午前のみ登校するようになった。B 男は「クラスの雰囲気が嫌だ。悪ふざけをしていてものすごく騒がしい。その音で頭痛がする」と言い、次第に 2 日行っては 1 日休むようになった。(#18)

#20 で Mo は「登校するようにはなったがまだ休む日も多い。また完全に行かなくなって

しまうのではないかと不安で仕方がない。私に赤ん坊のように甘えるのも一時期少し落ち着いていたが登校するようになって激しくなっている。家では私にぴったりくっついていて家事もできないくらいだ」と不安を隠せなかった。

#21-#30 では Co はこの Mo の不安を受け止め、労いつつ B 男の今現在出来ていることを毎回確認した。<朝は自分で起きられていますか?>「自分では起きられないが、私が起こしに行くとなんまり一回で起きてきます」<勉強はしていますか?>「かなり真剣に勉強に取り組んでいますね。集中して勉強しているときは私が声をかけても気が付かないくらいです」<クワガタの世話はしていますか?>「クワガタはしっかり面倒を見ています」というように丁寧に B 男の出来ていることを確認していくことで Mo は自分から「B 男は B 男のやり方でバランスを取っているようだ。2 日行って 1 日休むというリズムでやっていくのを B 男は自分で選んでいるようだ。私に甘えることで疲れを取り、不安を和らげている。B 男は必死なのだ」(#30)と気が付いていった。

そのような Mo の支えにより B 男は「休み時間はうるさくて辛いから本を読むことに集中してクラスメイトと一切関わらないんだ」と自分で決めて、それを Mo に話すという。Co が<なぜ B 男はそのことをお母さんに話をするのでしょうか>と Mo に尋ねると Mo は「B 男は人とコミュニケーションを取るのが苦手なのかもしれない。私は B 男に一人でも友達が出来たらいいと思っていたが。ついつい多くを望んでしまう自分がいる。B 男なりのやり方でやっているのだからそれを大切にしないといけない。B 男は私に話しながら発散したり自分の気持ちを確認したりしているのだと感じる」と B 男のぐちもうまく聞くことが出来るようになっていった。同時に Mo は「F が自分自身をコントロールしようとして頑張っている」(#32)ことに気が付いていた。

X+1 年夏まで F は B 男に勉強するよう言わないようにしていたがこの頃になって F は受験を意識し始め、口調が強くなっていた。しかし B 男は嫌な顔はするものの、以前のようにカッターで物や自分の体を傷つけることはなかった。Mo は「B 男が F に対してあんな嫌な顔をするとは以前見られなかった。今は自分なりの表現を F に対しても出来るようになったのだ」と B 男の態度も冷静に受け取れるようになった。(#34)

#39 では B 男が F に強く叱られるほどクワガタの世話を一層夢中にすることが報告された。Mo は「まるでクワガタに癒してもらっているようだ」B 男は「将来はクワガタを研究する研究者になりたい」と夢を語るようになったという。

第3期 X+2 年 1 月～X+2 年 4 月 #40～#46 回 家族が自立する時期

B 男は X+1 年 9 月から X+2 年 2 月までは欠席せず午前のみ登校した。F に言われるからではなく自分で決めて登校していた。半日で帰ることも B 男が自分の意志であった。F は折々に勉強をするよう言うことがあったが B 男もそれに強く反応することもなくなった。Mo は「F のように強く言う人がいても良いのかもしれない。私は私の役割で B 男と接することでバランスがとれているかもしれない」(#40)と F に対しての不満を言わなくなってい

た。

#44 では、X+2 年 3 月になって学校の学習体制が自習になった頃の様子が Mo から語られた。B 男は「学校では集中して勉強が出来ないので家で勉強する」と宣言した。{受験もする。卒業式は出る} と言ってはいたが Mo は心配でその不安も語られた。しかし Mo は Co に「受験当日行かれないかもしれない」と話しながら「B 男は自分で決めたことを間違いないでやっている。ということは本当に受験に行くのだろう」と不安はありながらも B 男を信じてあげたい気持ちにあふれていた。

#45 は卒業式の直後であった。「B 男は受験当日も卒業式も、朝自分で支度し受験した。また卒業式にも出た。卒業式では B 男は名前を呼ばれると「はい」と力強く答えた。それを聞いて私は涙が止まらなかった。翌日高校合格がわかった」と Mo は涙を流しながら話した。

#46、X+2 年 4 月、高校へ入り 2 週間したところで最後の面接が行われた。「B 男は入学式から毎日緊張しながらではあるが、朝から 1 日通して学校でやって来ている。宿題も多いが全てこなしている。二人の男子で話が出来る人が出来たとうれしそうに話してくれる。もう私に赤ん坊のように甘えてくることは全くなかった」

「まだまだ不安はあるが、自分の感覚や判断を信じてやって行かれそうである。この面接室があると思うと頑張れる」と Mo は面接の終結をはっきり決意した。

X+3 年 11 月 Mo からの手紙によると X+2 年 9 月くらいから勉強に集中し始め、クワガタの世話を弟に任せた。X+3 年 11 月 B 男の部屋のクワガタの物は一切なくなった。中学時代「クワガタ関係の研究者になる」と言っていたが、今は工学系を目指して勉強しているという。

Ⅲ 考察

Mo は F が仕事で忙しいので子育てをほぼ一人で抱え込んでいた。B 男の不登校についても一人でなんとかしようとしていた。また F が言うことには反論しないと思い込んでいた。そのような中、F の叱責により B 男がカッターで自分の指を傷つけたときに、Mo は一人で B 男について抱えるのは難しいと感じ、来談した。このときの Mo は Co に B 男の不登校をなんとかして欲しくて来談した。つまり最初は B 男を変えたいと思っでの来談であった。しかし Co は、Mo のありのままの気持ちをまず良く聴くことに徹した。そして Mo が頑張ってきたことについて支持した。また具体的なアドバイスも必要に応じて行った。例としては Mo 来談当初に B 男が出来ていた起床に関してであった。Mo が具体的に B 男に貢献出来ていると感じられることも大切だと考えた。それが安心感につながると考えた。また、Co が B 男の行動を分析し、B 男の変化を Mo にフィードバックしたことで、Mo は自分が行っていることを確認することができた。また Co は B 男の出来ていることを探し伝えた。これらの Co の対応は Co との信頼につながったと Mo が後々話している。そして Mo はそのような中で冷静さを取り戻していった。Mo は同時に B 男のありのままの姿を受け止め

られるようになっていった。

Mo は B 男が不登校になったことで自分自身と F との関係も見直すこととなった。これは#17での次の言葉に表れている。「今回の転居も子どもの転校も仕方がないと思っていた。B 男が不登校になったことでこの面談で話をしているうちに自分が今まで全て F の言うままにやってきたことに疑問を持つようになった。今までと同じではいけないと思う。自分が B 男の気持ちに気が付いていたこともあるのに F の事情で全て従うことになってしまった。B 男は転居と転校が決まったことを知らされたときに顔が一気に曇った。それを私は気が付いていた。それなのに B 男にそのときちゃんと気持ちを尋ねたり話をするををしなかった。なぜなら自分でもどうしてよいかわからなかったからだ」

面談の中で Mo は「B 男の不登校について話をしていたはずが、気付いたら自分に目を向けることができるようになっていた」と述べている。また Mo が自分の気持ちを大切にすることも良いのだと感ずることができるようになっていた。

F が面談に同行したときに、Mo は一言も話をしなかった。ただ黙って Co と F の話を聞いていた。その後の面談で Mo はこのように語っている。「私は自分でどうにもできないことを Co に依存しようとした。F には何を言っても無駄で、けんかになったり、私が叱られて嫌な気持ちになったりする。またはそのとぼっちりが B 男に向くことを考えると、F に何を言っても無駄だ。何も言わない方がまだ、と思うようになっていた。しかし Co が F に話をしているのを見て言い方ひとつで F と話し合うことは可能だと感じた」(#4)Co への依存から F を同行して面談したが Mo は自分で F となんとかやっていこうと“独立性”を身に着けた。

Mo は更にその後#18で「この面談の場では冷静になれる。いろいろ整頓できてそれを日常に持って帰り実行しようと思う。しかししばらくするとまた感情的になっている自分に気が付く。この面談がなかったら冷静に自分を見つめる時間がなかったと思う」と話した。神谷(2002)「単なる独立性は依存を拒否している場合もあり、それは必要に応じて他者に依存、助力を要請することができないむしろ無精神的未熟さにつながることを意味しており、自立が単に独立性の概念のみでは十分に説明できない」と言っている。

これは“自立”においては“依存性”と“独立性”のどちらも必要であるということを示している。Mo が面接という場面や Co に“依存”し、ありのままの自分を支持してもらえ体験を通して Mo は自分自身を見つめ、B 男や F へのかかわりを自主的に決定できるようになったという“独立性”をも獲得したことにより“自立”したことを説明している。

B 男がカッターで自分を傷つけるという表現さえも F に受け止められず、B 男は家出までした。それまで反抗もしたことがなかった B 男にとって、不登校となって初めて自分の意志を表現したのかもしれない。B 男は Mo に赤ちゃんのように甘えて“依存”できた。それまで常に従っていた F に対して“独立性”の表現をすることができたとも考えられる。この点は池田(1994)が『自己確立』とか『自立』という青年期の課題は本来、男性にとって問題となる主題である」とするように、男子は独立性を当然とされる節がある。そのため Mo

が「今まではとても良い子で親に逆らうこともなかった。不登校という状況になり、ようやく甘えてもいいという理由ができたのかもしれない」(#5)と頭でわかっている B 男の甘えを自然に受け止めることができずにいた。Mo が「考えてみれば私は無意識的にここに答えを出して欲しくて最初は来た。またたくさん泣いて感情的な言葉もたくさん発した。考えてみれば私自身が子どものようにここで甘えていた」(#47)というように Mo は Co のところでつらい感情を素直に出したり、泣いたりする自分自身の“依存”を積極的に理解し、B 男の不安に起因する甘えも肯定的に受け止められるようになっていったと考えられる。

また B 男にとってクワガタの飼育も大きな意味があったと考えられる。B 男はクワガタの飼育を通して専門店の店主と話をしたり、クワガタ関係の本の著者に手紙を出したりするなど外界とつながった。やがて高校では友人ができ、勉強にやりがいを感じて高校に通うようになった頃にはクワガタを弟に任せ、部屋から出した。森定(2001)は「人生の節目を乗り越えるとき、慰める存在や、外部にあるものに対して心理的に一体化し、慰めを得る」ことがあると言っている。B 男は Mo に自分の気持ちを理解してもらおうという“依存”によって支えられ、クワガタを飼育することを自主的に選んだ。また更に外界と接することも自分で選んだ。高校受験に向けてクワガタの専門家になる夢を持つことができ、学習への自主性である“独立性”にもつながっていったと考えられる。

カウンセリングにおける Mo の“依存”が F に与えた影響に関しては、来談当初 Mo は F に協力・理解してもらえないと感じていたところからの変化に見ることができると考える。Mo は面談で自分への信頼を得、F の気持ちも理解するエネルギーもわいた。B 男が不登校になった当初は登校を強いていた F であったが、Mo に自分の気持ちも理解されるにつれ B 男の気持ちも理解しようとするようになった。不登校になった最初の段階では B 男は F にできるだけ関わらないようにしていたが、やがて F と一緒に F の職場で勉強をすることを受け入れたことから F の変化が理解されるだろう。F も Mo に子育てに関して任せきりであったところから、この点では Mo に依存していたと考えられる。B 男の不登校を期に自分が頑張らなくてはいけないと感じるようになった。しかしそれが空回りし B 男を追い詰めてしまった。そのことを F は徐々に受け止めることができていった。

Mo は#48 で「B 男の不登校のこととして相談に来ていたが、この問題は単純に転校が原因ではないことがわかって良かった。家族の問題として今回見直すことができたことは大きかった」と話している。家族全体が実は同じ方向に向いていることを Co が繰り返し伝えたことで、家族の中で対立するのではなく協力していくことがテーマになっていった。

この事例から Mo が Co との相互信頼を中心として“依存性”が積極的に支持されて初めて“独立性”も獲得されやがて Mo のみならず家族の“自立”に至るということが考察され、Co との面談が“依存”の場として有効であったことが検証された。

この面談では最終的に B 男は不登校でなくなったが、“自立”と不登校の改善との関係は更に丁寧に考察される必要があると考えられる。

文献

- 東 洋 (1996) 日本人のしつけと教育 東京大学出版
- エリクソン,E.H. 小此木啓吾(訳編)(1973) 自我同一性 誠信書房
- 福島朋子 (1992) 思春期から成人にわたる心理的自立:自立尺度の作成及び発達の検討
発達研究 8, 67-86
- 福富護 (1995) 自立の心理ー子どもの自立を可能にするもの 児童心理 金子書房
49(2), 161-168
- 平木典子 (2003) カウンセリング・スキルを学ぶー個人心理療法と家族療法の統合-
金剛出版 105
- 池田豊應 (1994) 青年の自立と家族 久世敏雄編 現代青年の心理と病理 福村出版
83
- 神谷ゆかり (2002) 特性としての精神的自立に関する実証研究 風間書房 88
- 河合隼雄 (1986) 日本人とアイデンティティ 創元社 279
- 木村敏 (1972) 人と人の間ー精神病理学的日本人論ー弘文社 147-166
- 森定美也子 (2001) 心理臨床学研究 19(5), 535-541
- 渡邊恵子 (1995) 発達心理学とフェミニズム ミネルヴァ書房 77-101

<付記> この論文を作成するにあたり、このご家族が公表されることを快く承諾くださいました。心より感謝を申し上げます。

保育科学生に「オリジナル楽譜帳」を作製させるための 基本楽譜の選定計画案

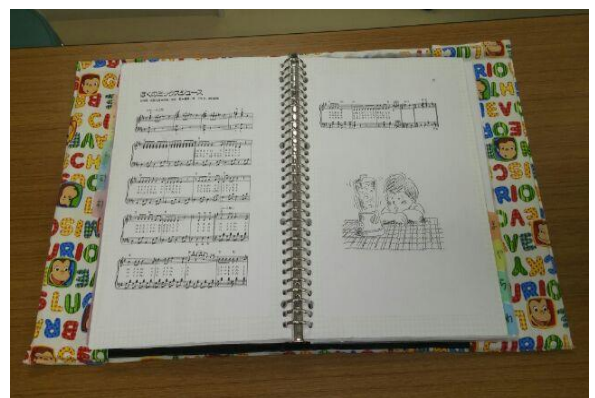
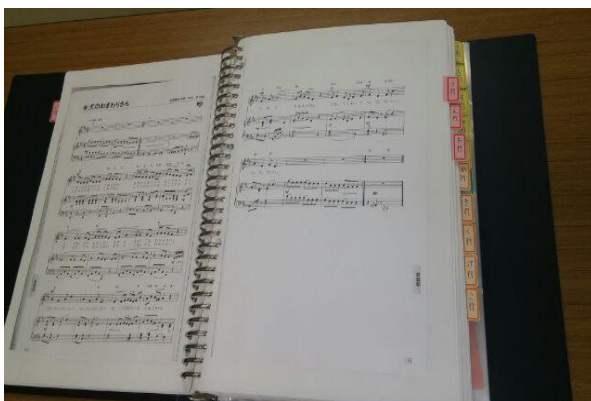
倉科 深陽

A Plan for Selection of Core Musical Scores for Nursery Students to
Compile a Personal Score Book

KURASHINA, Miharuru

1 はじめに

子どもの歌には童謡、唱歌、わらべうたの他、アニメソングや、幼児向け番組で紹介される流行歌などがあるが、幼稚園、保育園の現場ではどのような曲が歌われているか、筆者は1993年からの実態調査をもとに歌唱の研究を続けている。その調査から、園では、一日に7～8曲の歌を歌っており、どのような曲が歌われているかも見えてきた(倉科:2009, 2015)。保育士、幼稚園教諭を目指す学生は多くの曲を知り、より多くの子どもの歌を弾き歌いできるようにしなくてはならないため、教科書として使用している教材以外にも楽譜を配布することが多い。さらに実習先の園から配布される楽譜も加わることから、学生には楽譜を整理し、大切にするためにオリジナルの楽譜帳を作製するよう指導してきた。





※オリジナル楽譜帳の一例

現在のオリジナル楽譜帳には、授業内に配布した楽譜や実習園から頂いたものをはじめ、学生自身が見つけた曲や、子どもたちと一緒に歌いたい曲などを集録している。整理の仕方も季節ごとにしたり、五十音順に並べたり、工夫もそれぞれに任せ、本体のファイルや表紙も各々によって違ってくるため、学生が趣向を凝らしたオリジナルの楽譜帳になっている。また、卒業生からは「授業中にいただいた楽譜で子どもたちと一緒に楽しく歌っている。楽譜帳を丁寧に作っておいて良かった。」「学生時代に作った楽譜帳は、勤務年数が増す毎に一杯になり、今では3冊目です。」など、現場に出てからも活用しているとの嬉しい声も聞かれる。

筆者は、学生の様子や現場からの声(意見)を取り入れながら充実したものになるよう、配布楽譜の検討やまとめ方の研究を常に重ね、授業に取り入れてきた。今までは、その都度楽譜を配布し、学生それぞれの楽譜帳に付け加えていくようにしていたが、本試みでは、弾き歌いの学習に役立てられる要素と、現場に出てからも十分活用できる要素を持たせた、土台となる楽譜集を最初に作り、配布して、学生にはそれを基に付け足しながら、オリジナルの楽譜帳に仕上げてもらいたいと願う。そこで、基本となる楽譜の選定について以下に示した。

2 基本となる楽譜の選定

同じ曲でも、初心者でも弾ける伴奏譜から練習を重ねた上級者でないと難しい伴奏譜がある。例えば、旋律部分を右手または左手で演奏している伴奏譜や簡易伴奏、旋律部分が無いコードでの伴奏譜などがある(※図1参照)。

本校学生のピアノ学習歴は学生によって違い、本校入学2か月前よりレッスンを始めたピアノ歴が浅い学生から、幼少から習い始め現在に至るまでの学生もいる。日ごろは授業内での個人レッスンによって、個人のレベルやペースに合わせたレッスンが行われているが、ピアノ歴が浅い学生にとっては弾きながら歌うことは簡単ではない。弾き歌いでも様々な伴奏譜があるため、難易度が高い楽譜は簡易伴奏譜を見つけ練習するか、伴奏部分を簡易化して挑戦する姿がある。

学生の間に力をつけ曲数を熟し、現場で通用する技能力を目指すために今回の楽譜集では、難易度の違った楽譜を2譜提示し、弾きやすい楽譜から挑戦できるように工夫したいと考える。また、初心者には指番号が示されている方が練習しやすいと感じ、指番号付きの楽

ドモドモドン！一年生
♪ 作詞：アキラ 作曲：坂井 編作：江ノ田多恵子 編曲

Allegretto 元気よくうれしそうに

ドキドキドン！一年生
♪ 作詞：アキラ 作曲：坂井 編作：江ノ田多恵子 編曲

Allegretto (げんきよく、うれしそうに)

図1 楽譜例

譜にしたいと考える。

子どもの歌と言っても非常に多くの曲があるため、ここで取り上げる楽譜集の曲を、下記のように設定した。

- (1) 教育実習・保育実習期間中に多く歌われている季節の曲（6月実習、7月実習、8月実習、11月実習、2月実習）
- (2) 生活を通して自然に覚える曲（歌から覚えよう）
- (3) 保育者と子どもたち、子どもたち同士でできる交互唱の曲
- (4) 卒園時に合う曲
- (5) 授業内に使用しているテキストにはない、園で歌いたい（歌っている）曲
- (6) 楽器導入前や、楽器と一緒に楽しく歌いたい曲

(1)～(6)の設定理由は次のとおりである。

(1)の設定理由：実習は講義では学ぶことの出来ない貴重な時間であるため、予め準備をして臨んで欲しいと感じる。実習の事前打ち合わせにて現場で歌っている歌を園から教えて頂き、楽譜までも頂戴してくるが、1週間程度では伴奏を弾くのみで精一杯になってしまい、余裕がなく、子どもたちの様子を見ながらどころか、鍵盤や楽譜から目を離すことが出来ない学生が多い。現場で歌われていると予想される曲のみではあるが、早いうちから練習を行い、実習先からいただいた課題にも抵抗なく取り組めるようにしたい。そして、余裕

を持って実習に臨めるよう、少しでも早くピアノの練習をさせたいと考える。

(2) の設定理由：幼稚園、保育園では、朝の歌、おべんとうの歌、お帰りの歌など生活の歌が多く歌われている。生活の一部として歌っており、習慣化されている。どの歌もそうであるが、何度も歌っているうちに歌詞も覚え、詞の内容も自然と心に入ってくる。ひらがな、数字、暦、曜日、音階なども乳幼児期から歌を通して、自然と馴染んでおくことが良いと感じる。

(3) の設定理由：子どもたちは保育者の模倣唱から学び、覚えていくことが多い。保育者の美しい範唱のもと、発声、発音、音程、リズムを覚え、最初は保育者と子どもたちでの交互唱、慣れてきたら、次はお友だち同士での交互唱を楽しく行って欲しい。相手の歌を聴き、タイミングを取りながら歌うことの楽しさを味わって欲しいと願う。

(4) の設定理由：子どもたちにとっても保育者にとっても、卒園時に歌う歌は、まとめとなる歌であろう。小さいころからたくさんの曲と出会い歌っていく中で、いろいろなリズムや音程、歌詞を覚えて、歌えるようになった喜びを感じながら歌って欲しい。そして、成長した子どもたちの歌声が響くように、主旋律は子どもの声に任せ、そこに保育者の弾くピアノ伴奏で華やかに飾って欲しいと願う。

(5) の設定理由：授業内に使用しているテキストにも、たくさんの曲が集録されているが、まだまだ多くの素敵な曲がある。一部の曲のみならず多くの曲を知り、伝えていくことは保育者にとって大切であると考え。現場で歌っている曲も園ごとに違ってくるため、園ではどんな歌を歌っていて、どんな素敵な曲があるのかを知り、自分のレパートリーにして欲しいと思う。

(6) の設定理由：幼稚園、保育園では、カスタネット、鈴、タンブリンなどの打楽器や鍵盤ハーモニカなどのメロディー楽器に触れることが多い。まずは楽器に親しみ、興味・関心を持たせることが大切であるため、日ごろの歌唱活動を広げ、歌の中に楽器名や、擬声語が入っているものや、歌の中に一部楽器を入れてみるなどの導入を行うと、親しみが感じられると思う。

以上の理由より、現在選曲している曲をまとめてみた。

●生活のうた

朝のうた・おはようのうた・おはよう・お弁当のうた・歯をみがきましょう・お帰りのうた・さよならのうた・朝一番早いのは・おはようクレヨン・ぼくのミックスジュース・にんげんていいな

●春の実習（6月）

とけいのうた・大きな古時計・かたつむり・かえるの合唱・おたまじゃくし・かえるのぴよんた・あめふりくまのこ・あめふり・雨の遊園地・ながぐつだーい・ニャニユニョの天気予報・だからあめふり・にじ・あまだれさん・にじの向こうに・しゃぼん玉・く

じらのとけい・あしたははれる

●夏の実習（7・8月）

水あそび・おばけなんてないさ・アイスクリームのうた・はなび・トマト・手のひらを太陽に・とんでったバナナ・バナナのおやこ

●秋の実習（11月）

とんぼのめがね・きのこ・どんぐりころころ・やきいもグーチーパー・たきび・まつぼっくり・北風小僧の寒太郎・山の音楽家・秋のこびとオータムタム・赤鬼と青鬼のタンゴ・はっぱのことり・はたけのポルカ・くだもの列車・まっかな秋・こぎつね・虫の声・大きな栗の木の下で

●冬の実習（2月）

ゆき・雪のぺんきやさん・コンコンクシャンのうた

●歌から覚えよう

数字のうた・あいうえおほしさま・10人のインディアン・カレンダーマーチ・月火水木金土日のうた・1本でもにんじん・一週間・頭かたひざポン・おはなしゆびさん・とうさんゆびどこです・ドレミのうた・ドレミファンタジー・クラリネットをこわしちゃった・名前 住所 電話番号・交通安全・動物しりとり・どんな色が好き

●交互唱の曲（先生のあとについて歌ってみよう）

こぶたぬきつねこ・やまびこごっこ・森のくまさん・大きなうた・あの青い空のように

●卒園時に歌う曲

ともだちはいいもんだ・一年生になったら・ドキドキドン一年生・一年生になります・さよならぼくたちの保育園・ありがとう さようなら・たいせつなたからもの・きみとぼくのラララ・思い出のアルバム

●授業内に使用しているテキストにはない、園で歌いたい（歌っている）曲

ありがとうの花・シンデレラのスープ・ぼくたちのうた・はじめの一步・友だちになるために・さんぽ・だいだいだいぼうけんのうた・ケンカのあとは・うたえバンバン

●楽器導入前や、楽器と一緒に楽しく歌いたい曲

おおきなたいこ・カスタネットでチャチャチャ・たいこのおけいこ・さんかくトライアングル・へい！タンブリン・タンブリンの輪

3 最後に

この楽譜集は、学生の中に力をつけ曲数を熟し、現場で通用する技能を目指すために教科書の補助として使用したいと考えている。2年の間に現場で通用する力を身に付け、いずれは2譜面の両パターンで伴奏が可能になることが望ましいと思う。保育者の技能に合わせて伴奏譜を決めるのではなく、子どもたちの様子や、成長に合わせた音楽で援助していくことが大切であると考え。学生の様子や現場の声も取り入れながら、楽譜集を完成させたいと思うが、この楽譜集は、まとめ方も増減も自由にアレンジ出来るため、完成、配布後には、自分のまとめ易い仕方でもまとめ、工夫し、自分だけの宝物になることを願っている。

<引用文献>

- 倉科深陽(2009) 幼児の音楽教育における歌唱研究 ―現場で歌われている幼児の歌の調査と考察(1993～2008年)― 文化女子大学長野専門学校研究紀要 創刊号
- 倉科深陽(2015) 幼児の音楽教育に関する実態調査 ―アンケートによる幼稚園・保育園の現場からの声― 文化学園長野専門学校研究紀要 第7号

文化学園長野保育専門学校研究紀要 投稿規定

1. 目的

文化学園長野保育専門学校研究紀要は、本校における研究・教育活動の成果を広く公表することを目的として発行する。

2. 投稿資格

紀要に投稿できる者は、次のとおりとする。

- (1) 本校専任教員および兼任教員
- (2) 本校専任教員との共同研究者（この場合は本校専任教員と連名とする）
- (3) 編集委員会が執筆を依頼した者、あるいは執筆を認めた者

3. 投稿原稿の種類

原則として、次のとおりとし、未公刊のものに限る。

原著論文、総説論文、研究ノート、報告（実践報告・調査報告）、書評、資料紹介など。
上記の他、紀要編集委員会が適当と認めたもの。

4. 提出原稿

原稿の作成は、別に定める「紀要原稿作成要領」に従って執筆する。

5. 原稿の提出先

本校紀要編集委員会

6. 採択

原稿の採択と調整は、紀要編集委員会で行う。

7. 著作権

掲載された論文などの著作権は、原則として文化学園長野保育専門学校に帰属する。
ただし、著者が自分の論文などを利用することは差し支えない。

編集委員会

守 秀子（委員長）

杉村 僚子

平成 28 年 12 月 22 日発行

**文化学園長野保育専門学校
研究紀要 第 8 号**

編集発行 学校法人 文化長野学園
文化学園長野保育専門学校
〒380-0915 長野市上千田 141
TEL. 026-227-2090
FAX. 026-224-2200

印刷 松下産業株式会社
〒380-0836 長野市南県町 1035
TEL. 026-266-8456